標注七部集

坤

古今ヨリ[illegible] 古八宗鑑守武
負德宗因ノ時代ヲサン今八負
享元祿ヲ云
面起スハ面目ヲ得ルナリ拳白集ニ
月もまおもて起す面目哉
幻術ハ即今呑刀吐火ノ類ナリ
千載集[illegible]
て[illegible]
不変ハ不易ヲ云変ハ流行ヲ云
五德ハ五常ト云又洪範カ五事ノ
德ニヤ貌曰恭言曰從視曰明聽曰
聰思曰睿又信德カ云俳諧ノ五
德ニヤ
骨ニテ人ヲ作リタテト云ハ撰集抄
ノ古事ナリ

猿簑

晋其角序

俳諧の集つくるや古今あまたなれど
世ひとの知りて起せる面目時なれば
幻術の第一とすべきの句は魂の入れば
夢もまぬ[illegible]
世よりこの方人を捨てふ変
の変をとゞめむ五德ハいふ及ばず
人をよろこばしめ面白きみち
彼面白人の骨をて人を作り

五声ハアイウエオノ五音ナリ
反魂ハ方士ト密家ノ秘法ナリ
アイウエヲトアリ オニ改ム
響ハ附声知影之着形

此行脚ハ元禄二年ノ冬ナリ
神ハ変化之極妙万物而為言不可
以形詰

断腸ハ肝腸寸断ノ謂ナリ
白氏文集猿過巫陽始断腸
魂ハ陽神也魂ノ入テユツ天地ヲ
動カシ鬼神ヲ感シムルノ妙ニ至ルヘ
ケレ故ニ魂ノ字五ツ神ノ字ヲ合テ
文中ニ六アリ

私ニ文中ノ綱領ト段中ノ眼目トニ
小圏ヲ加テ童蒙ニ示スコト蕉門
ノ正目録ハ一ツノ亀鑑ナレハ也
元禄ノ製本ハ年月筆者ノ一行
アリ故ニ首ニ其角序ト書ス然ルニ
一帖ノ冊紙ヲ吝ミ後年書肆ノ
被去シモノヽ序ノミ蕉翁ノ書ト
云ハ非ナリ
雲竹ハ林観玉蘭堂北向氏公郎左
衛門加茂藤水甲斐守敦直
門人 祖翁京師遊学中入此門

元ちうて四集をつくりあつめて猿蓑よりも
名付申されたる学ぶの序もその心を
魂を客にして古来九祇の深まのよ
ちうて書

元禄辛未歳五月下浣　雲竹書

もノ字禽獸ヲ相兼テノ歎息
すり

鯨
勇正字鱗魚サノホリト云

廣澤洛外ナリ沼太郎諸説アレト詩経名物弁解ニモ鴻ノ種
ト云リ

ぬぬそハ歎ふくすり
ちろうーやハ神無月ーふれ
降おろうなしのうのなる
ちふ雲のうろふ古歌をフクメリ

猿蓑集巻之三

冬

初しぐれ猿も小蓑をほしけり　芭蕉

なれきけと呼ぶ面白の花の種　其角

呼ぶ面白やあひの子の子の鈴の音　子那

幾人か呼ぶかけぬく野田の橋　伊賀　丈草

綫香の煙ほそくなりられかな　猪苗代　西鶴

寒夜やひらうちさる沼太郎　史邦

舟人よわれて寒し呼ぶ鳥　尚白

伊勢の境をへて
ちろうーやちろろの鳴の一ふれ　曾良

笛山城より人丸ノうタニ
山城のふ情のアまるハまるとかろうそうそ雲をおもい

劉元叔カ北斗星前横旅雁ノ
換骨すり

弦犯言ふ不猿の歌紛ふ
舟の中ふ行とやうそうトアリ　御寂

ふるさとの黒木つむかの夢かよう　凡兆

ふるかりて所田の星やしーふれ　乙孝

ふるやのそれーー星のうろ恋歌呼ぶ　羽紅

刈田ふ稗殻ふるーーふれふる角　長崎　昌房

いそかーや沖の呼ぶの声帆ヶ帆　去来

初雪ふ打やや北斗の星ふ雪　伊賀　白歳

いろも雪ふうのちふ雪歌ふ　聖水

淀にて

初雪ふ呼ぶとおろうそ初の外　甚角

降ちもそれふ雪ん是ふまれ　同

降ちの松のうの義雪ふ沖　冬月　凡兆

挙白集ニ見たる人まゝ見え候 古の居る野中の杭をつくらふ 辺のさと

原本灵聖ノ聖ハ書損ナリ
灵照女ハ龐居士ノ女常ニ鬻竹灑籬以供朝夕ニ傳燈録ニ詳ナリ
歎息ノ意なり

百舌鳥の居る野中の杭よ十月　嵐蘭

こがらしや頬腫痛む人の顔　芭蕉

砂よけや蜑のかたへの冬木立　凡兆

奈良にて

棹鹿のかさなり臥る枯野哉　伊賀 土芳

渋柿をながめて通る十夜哉　膳所 裾道

茶のもやわらく人に霊照女　越人

蓑虫の茶の花ゆゑにかれらるる　伊賀 猿雖

古寺の簀子も青し冬がまへ　凡兆

翁の堅田に閑居を聞て

雑水のなどころならば冬ごもり　其角

三

東海道草津駅の姥が餅なり

増山井ニ冬至の日をいはひ十月朔赤豆飯を用ゆるならはしありと云

江州犬上郡所祭伊弉諾尊多賀ハ高宮駅ニアリ

らの字さ牡丹のもゆり檪　伊賀 車来

草津

晦日もすぐる姥がこの頃　尚白

神迎ふ水口だちか馬の鈴　珍碩

霜月朔日

猪まりの日の何もてし赤椀　伊賀 良品

初雪月の屋を称ふや水仙花　羽州 不玉

大八世をくるすのむろしきや冬の蜂　ヲハリ 旦藁

尾頭のこころもとなき生海鼠哉　去来

一構し宮守海や鶴年一葉　伊賀 探丸

道ばたに多賀の鳥居の寒さ哉　尚白

[illegible]

[illegible]

古文前集ニ貧交行ノ文アリ

[illegible]巴八千鳥のもれて渦巻ヨ云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

エト 兎角
丸形
苫葦
基角
丸北
ヌリ 芦境
イカ 半殘
丈草
雪良
[illegible]

六田ハ越前
新古今ニやたの[illegible]

[illegible]

余吾ハ江州伊香郡

原本紫の口ヒアリ去来抄ニ先師曰此本ヲ出板ホ[illegible]ト
改ム

[illegible]

史邦
丈子
[illegible]
丸地
木節
丈子
改通
旦業
杉風
基角
十九ヤキ 善年

紙衾之記芭蕉文集ニアリ
余ハ寝衣ヨリ大ニ被ヒ衾

元禄二年曽良奥州行脚ノ供セシ前此吟アリ

膝突ハ徒然草陸士又五郎カ段ニ有リ半臂ノ類ナリ

見やるさへ旅人さむし石部山　大津尼 智月

翁行脚のふるき衾をあたへらるゝ時

[illegible]

首出して初雪見はや此衾　竹戸

題竹戸之衾

畳目ハ我手のあとそ紙衾　曾良

魚のかけ鵜のやるせなき氷かな　探丸

志つかさを数珠もおもはす網代守　丈草

清白梅に候す

膝突にかしこまりゐる霰かな　史邦

椶櫚の葉の霰に狂ふ嵐かな　野童

家持カ鵲ノ橋ノ歌換骨ナリ

我妹子ナリ

去来抄翁を[illegible]

穂屋ハ諏方郡御射山諏方ノ神事ナリ

鵲の橋よりこほす霰かな　示蜂

呼かへす鮒売見えぬ霰かな　凡兆

[illegible]　画好

初雪や内に居さうな人ハ誰　其角

初雪や鷹部屋のそく朝朗　史邦

霜やけの手を吹てやる雪まろけ　羽紅

わきもこか爪紅粉のこす雪まろけ　探丸

下京や雪つむ上の夜の雨　凡兆

なかなかと川一筋や雪の原　同

信濃路を過るに

雪ちるや穂屋の薄の刈残し　芭蕉

五元集ニ芭蕉空庵ヲ訪テトアリ
枯尾花ニ今年就中老衰ニト
歎キあつり云〻
白氏文集ニ杏ノ岑雪撥簾看

播州豊嶋郡ニ出ル塵ナリ

空也上人ハ延喜帝才二皇子ト云
元亨釈書ニ釈光勝不言姓氏
もノ字ニツヲセテ瘦ノ字ヲ想無
ハト云

芭蕉の葉もなびけて庵の空
復読ハ簾もなびけて庵の空　甚角
雪の日ハ休のよ笠てやすらかなる　羽笠
涉るとも健るとハこゝろの旅　和七
ひつかけて約や雲の手しまを　古来
青垂追悼
氣香のみ世ハ世を後ハ仏ハ　尚白
かゝ蛙も空やの底も空の色　芭蕉
涉るとを惜ハ哭ハ哭ハ　九郎
一月ハ我ま来りを絶えくき　丈草
仮吉を純

五元集ニ息白きトアリ

元録ニ年ノ暮乞弱ガ家ニ春ヲ待玉フテノ吟ナリ

弱法師ハ乞食ナリ

年ノ一夜ノ隔ヲ薄壁ニ比喩セシナリ
貞享四年去来千子伊勢熊野ニ行セシ事アリ

老ヲ著シテナリ老隙又老ハ
非ナリ

歩行ハ弟ハ息白一面の色　甚角
笹雪ハ人ハ望む一きらきらしし　吟郎
ゆ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ蟋蟀ハ　祐南
乞弱ハ新宝ハ
人ハ家を知ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ赤ハ年忘　芭蕉
弱法師　赤ハ世ハ俳の札　甚角
年の暮ハ世ハ揚粗文をきけハ小ハ枕　長初
笹雪の一夜を知ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ　去来
笹雪ハ年ハ〻ハ〻ハ〻ハ伊勢熊野　同
大ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ　羽和
ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ年の暮　甚角

去ことなり

面起スハ序ニ云ル面目アルナリ
俗ニ外題ヨキナリ

奥州行脚ノ時那須野ノ吟也

いねいねと人にいはれつ年の暮　路通

としの暮破れ袴の幾くだり　杉風

猿蓑集巻之二

夏

有明のおもておこすやほとゝぎす　其角

夜ルきこえ墨うつ窓や時鳥　来筍

野を横に馬引むけよほとゝぎす　芭蕉

子規にあまと隠れて後もなし　尚白

時鳥何もなき野の門ン構　凡兆

昼まてはさのみいそがぬ時鳥　智月

奥州ハ貞享の比吉原ニテ名高キ妓ナリ

訪人も思ひたえたる山里の
さびしさなくハ住うからまし　西上人

蜀魂なくや木の間の角櫓　史邦

入相のひゞきの中やほとゝぎす　羽紅

時鳥滝よりかみのわたり哉　丈草

心なき代官殿やほとゝぎす　去来

恋死なば我塚でなけ子規　遊女 奥州

松嶋一見の時千鳥もかるや鶴の毛衣とよめりけれバ

松嶋や鶴に身をかれほとゝぎす　曾良

うき我を淋しがらせよかんこ鳥　芭蕉

旅館庭せまく庭草を見ず

若楓茶色になるも一さかり　曲水

古文ノ遊子吟ニ慈母注ニ慈ハ仁愛也故謂慈母妙務尼墓在于麻布二本榎上行寺

四月八日詣慈母墓

ちるまでもしらぬ花なれ　其角

蓬切なれぬ世を牡丹の露ならし　金峯

別僧

ちる時の心やすさよ米嚢花（ケシノハナ）　越人

智恵の有る人には見せじけしの花　聡欣

萬の終をも終て蓮ぞうき

見送りて

似合しきけしの一重や須磨の里　亡人 杜國

青くさき匂ひもゆかしけしの花　嵐蘭

丹の香に浮し清し哉つきこ　半殘

古郷に起出てもの……〳〵やどのかよへる心コレヲ前書トス

豊國社ハ山城愛宕郡ニアリ文山詩ニ零落東山古廟廓ト作レリ

起出て物にまぎれぬ朝の間の

起々の心うごかすかきつばた　仙化

題去来之嵯峨落柿舎二句

豆植る畑も木部屋も名所かな　凡兆

破垣やわざと鹿子のかよひ道　曽良

南都旅店

灌仏やあさらの春の里の桐　千那

洗濯やきぬにもみ込む柿の花　薦芝

豊國にて

竹の子の力を誰にたとふべき　凡兆

竹の子や畠隣に悪太郎　去来

照射（トモ）ヲ行ふ狩火半ばに夜山ノ狩ヒ

蛸壺ハ章魚ヲ取ル器ナリ拾遺集ニ夜の秋ハ浦吹ふるの笛ちかぬ[illegible]

近江坂田郡筑ノ社四月朔日神事ナリ

源氏総角ノ巻ノ面影カ翁曰物語ノ姿一集ヨハラ[illegible]ものくト

寛文四年ノ吟ナリ

多けの[illegible]や稚き[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

狩ヲ吹この[illegible]

蛸壺や[illegible]や筑摩[illegible]鍋[illegible]

天ノ代や[illegible]

五月[illegible]

[illegible]松蕎[illegible]

[illegible]ふ[illegible]

隈笹の[illegible]

[illegible]

芭蕉

正秀

芭蕉

越人

天角

芭蕉

岩翁

尚白

大坂ノ尾口ニテ藤堂仁右エ門ノ新ヒ討死ス元和元年五月七日也

蟬吟子ハ祖翁ノ古主ナリ

高館ハ青衡基衡秀衡三代ノ旧跡ナリ

万葉ニ鹿火屋トアレトモ此句蚕ノ飼屋ナレハ顕昭ノ説ヲ用ヒ玉ヒしカ其場ニヨルヘシ

源氏須ヲ巻ニ明石の[illegible]

荘子則陽篇有国於蝸之左角者曰觺氏有国於右角者曰蠻氏

文草詩ニ多年負屋一蝸牛化做蛤蜊得自由

老夫

大坂ノ[illegible]の夜の[illegible]十年

夏[illegible]高館[illegible]

夜[illegible]や兵[illegible]の跡

這[illegible]よ[illegible]下の燈の影

蟬吟

芭蕉

同

蝸牛角[illegible]

五月[illegible]

比[illegible]

[illegible]の渭[illegible]雨

同

凡兆

木節

史邦

夏[illegible]名取の[illegible]中将宮[illegible]

中将実方ハ長徳四年十二月
於任国卒

笠嶋やいつこさまシト　含光吟なり

料足ハ銭の事なり

つゞくりハ綴の延語なり

剃刀（カミソリ）　和名抄ニ錬精（カナサビ）

左傳ニ葵猶能衛其足又聯珠
詩格唯有葵花向日傾

の塚はいづくにやと尋侍れは道より
一里半ばかり左の方笠嶋といふ處に
ありとをしゆふりつゞきたる五月雨
いとわりなく打過るに

笠嶋やいづこ五月のぬかり道　　芭蕉

大和紀伊のさかひはてなし坂にて往
来の順礼をとゞめて奉加すゝめければ
料足つゝみたる紙のはしに書つけ侍る

つゞくりもはてなし坂や五月雨　　去来

髪剃や一夜に金精（サビ）て五月雨　　凡兆

日の道や葵傾くさ月あめ　　芭蕉

左イソリ

輿丁（ロクシヤク）

近江滋賀楽（シガラキ）ノ里なり

縫物や着もせでよごす五月雨　　羽紅

七十余の老醫みまかりけるに、
弟子たちよりてなく〳〵辞世ハ
いかにの句乞ける其の老醫ロよ
をかりし時もさぶらひ人年老ね人に全
ひらきさうらひけれハ気のつよ思ひよれ
して古来稀なる齢にこそと
さとくいまさうらひけれハ　いへと

六尺も力おとしや五月雨　　其角

百姓も麦にとりつく茶摘哥　　去来

志がらきや茶山しに行夫婦連　　正秀

杜律註ニ風流謂得前賢之流風遺俗
風流ノ始トハ陸奥ノ古風ノ遺俗ヲ云リ
眉掃ハ化粧道具ナリ
法隆寺ハ大和南無仏ノ太子ハ聖徳太子ノ御像ノ

つゝみたのふる仏の名ゆゑ麦畠　セミ　滝力
孫を愛して
麦藁の家てやらむる蛙　紹月
麦ふみ来て鯉まつふ山家哉　エト　芭蕉
ちらぬ川の岸ちかく
風流の始や奥の田植うた　芭蕉
出羽の国にまかりてとまりて
眉掃を面影にして白粉の花　同
法隆寺南無南無仏の名ゆゑ
拝ん
清涼のまつれたちらしし白粉の花　子形

鳴ノ海ノ間ナリ
鶯ちるは賞来ナキナリ
八鬼是谷ハ熊野山中ニアリ

田の面ゆ見つゝ行くかり　イカ　万乎
猪伏曲水の橋まて
笠ぬ吹とまされて暑の長　去来
野田の笠見二句
富の板やる供法花笠丹　丸北
笠ぬ形ぬてゆ面つゝる　芭蕉
こゝ熊野こ清ら時
笠ぬ貴きぬ鬼屋谷　ナカサキ　田上尼
たちかちる物ちちちなかめ　尚白
まむしやる谷ハ中くらの夜　半残
病後

さつらハ逆上ヲ云リ

燒敗辭ハ風俗文選ニアリ
万葉集三憤良等ハ今ヤよ
かゝむとなくらむまゝ母も
ちをてはらんの歌ヲトルベシ

往者ハ家僕ヲ云

吉次ハ金賣橘次信髙ナリ
稱ナリ者ハ若冠ノ称ナリ髙下者ハ
五元集ニハ友の衣をミゝ恨ハ
トアリ一説ニヤ
下閨ハミゝ〻く蟬の声ナラ
ント修ヒ含メル句ナリ

空うりやかゝらふつくる会の毛　大サカ　何丸
海尾や系ち先なる会のむ　乙弱

燒敗辭を作りて

るや浦人甚るの母さ敗の香ん　嵐象
錢別

立ちやや敗ちもつまる敗の品　セ、里東
うちとく成人なつれて年ぞまる往者

まをもむけして

みしら敗を去次ら家去る名ぬ　甚角
陳ぬ敗世の出て月の宛　丈芝
下冨や地出ちるの敗の影　嵐雪

莊子ニ蟪蛄不知春秋

舟引唄ニちよ浦ちく鬼ま
縁ちくれ系ハ敗まちらハ縁
てせとちトアリ

日泉賦ニ浮蟻螻而撒天列
三螻蛸トアリ原本鑑誤字

おゝ敗ハ居ハこゝる敗のこゝる　探雪
敗て死敗ハ一さゝ文敗のこゝる　芭蕉
義さや敗ハ音麻刈ら家の玉　槐市
海ちかけて藻の毛敗く陳ら　凡兆
舟引つる書の鳴ちの敗　多邦
白百や結ぬちて敗口の夕　史邦

まふ出ら蕉ニ蕉池窓

白百や蕉ニ敗の敗て敗ちら陳　嵐象
日敗白や敗ハ敗ハ〻つゝく敗敗　乙弱
日の敗のつゝ盟の窓の蟻ちま　凡兆
ちの雲白ち鼻つきなの敗素敗ハ　同

日の暮や京ト大津ノ間一里塚ノ西ノ

竹ハ五十年ニシテ花咲実ヲ結ト其竹則枯ト云ヒ自然枯ト云　復又復

千子ハ去来カ妹元録元年ノ没古九ハシ

原水朝ナリ一水浅ニ作ハ誤リ

日の暮や京ちかくして暑き牛の舌　正秀
たく暑し　籬まれい数の蕎　本蕉
きつ移んらの数の風そなつかしし　野童
夕虫よりよりそつぶき暑さ計　羽紅
まさをな海八ちう空ん花のつきぶ　巴山
ふるさとの水やちりはらきすてこのくま
ようきをつ　仙
きをんの小和も虫や土用干　蕉
ふ雲自や敷かしこ敷ちまを　義案
ちちちちふ病れい涼きう敷ふ　京次
ちちしきや敷茶門ちはそのひ込　化北

六月ノ日祇園ノ鉾ナリ

原ちよ墨つく児のまくちの外　多賀
月鉾や史の鉾の舞鉾　曙
夕暮や岷ひくるこの暑　去来
ちく負て法よのて
雲の峯ちの八比叡ふ物う　大サカ之通

猿蓑集巻之三

秋

秋風や蓮とちのぶは蓮ふ　蓮人
しら雲ふ武ちきこまもし雲ふ
かつちちとぬけ初る歯や社の風　杉風

全昌寺ハ大聖寺ノ城下ニアリ

叡山ヲ大ひえ小ひえト和歌ニ多クヨメリ

芭蕉葉ハ何ゴとなれとや秋の風　野通
人ゴとに結ばるゝ秋のうを　弥須

加賀の全昌寺にて

秋涼し手毎にむくや栗の山　夢丸
芦葉や浪うつ霧の秋の風　江戸 小川
鶏頭や背屋畠のたのもの秋　凡兆
初雁や拐の外迄の影行うり　去来
大比叡やとゝろ秋葉の雲の岸　野童
三葉ちるて孫拐桐の苗　凡地
文月や六日の夜の星合　芭蕉
全歌の本の葉ゴとに星の野　同

古今ニ以ゝうとまちゝ字をたゝちゝあけてゝの川原をたゝちゝん

霏雨又微雨カ

ちり初る　イカ小年 拐の
おもふも俳うり角力取　去来
野辺ハ霧晴ぬるの蔓のあとあれ　イカ 風麦
蕣や咲ふも法あり拐の木槿　セ、 及肩
手をかけてをゝてるり木槿ゴ　岩葉
高灯籠堂を拐うめ　拐の
果も残く漢の時吉や秋徽る　子彫
雪ちゝ初霜の中ゝ初あゝし　史邦
秋風やとゝてゝ芭ハ動くゝ　旦葉
迷ひるの釈ゝゝゝ芭　東　三方ハ 子尹　明和

柴賣文八風俗文選ニ出ル

榜（アヒル）　和名抄ニハ初俗ニ云天祥棒ノ子ト

目見トイフ山ハ長崎ヨリ大村ヘ通ル道ノ嶺ト

古今ニ秋の暮の字の秋を略して書出てはまく紙と又ゆらん里ひらクヲ重イカニ誤ル本アリ心ヲ認ヘシ

イタヾリ煩ヒ苦ム

八潮を分て舟路を極めて寄るの
文出るつゝみて
まゝ榜の先の芦うれ　凡兆
つゝ　ようのつゝみ見よ
山ゝて卯ちみ
実うもまゝ　去来
茅州よりの里ひらの芦の蔭　李由
元禄二年菊月伊勢ヘ
のくより之雑詠
一ゝ
世ゝて先ゝ

細ニ行ノ　トアリ　そくは
ら八再案ナラン
山家集ニいはくまの松原
なれ侍へと思ふ出はまの
芝の義
相の木云ゝ古今抄ニ田荘ノ
酒家ト題アリト云

白氏文集ニ因病病夫憐病雁
ノ一轉ナラン
竈馬　蟋蟀ノ一種ナリ
多田ノ神社ハ八幡宮ナリ実盛
ハ加州篠原ニテ戰死ス胃ト
直衣義仲願書ニ添テ當
社ニ奉納ス

芭蕉
元禄
芭蕉
同

芭蕉
元禄
正人
蕉桐

芭蕉
同

加賀の
寶
加
なゝ

実盛謡にたちなむさんやかの高
為別當ときてみひがるるやや
ト云フ詞アリ
甲ハ俗訓兜ヲ左傳ニ見ル

去来伊勢記行ニ出ル
道中記ノ哥ものこりあの夫橋
のもとにてこゝにもいとかな
ましれ淋田のもとにて
和名抄ニ鰲魚 本艸拔頭
魚 鰲ハ借字ニテ字典ニ
所謂不合ナリ
万葉ニ初月トアリ五日六日ノ月
ト云ハ非ナリ
伏見ノ城元禄ノ比又廢ス

むさんやな甲の下のきりぎす　芭蕉
菜畑や二葉の中の むしの音　尚白
様おりや 壁よ蔦て鳴秋の月　風麦
いまるよりてにる時
菜畑や矢橋よ渡る人ともん　ゑん
こゝ自よ 蠶のたゝきをかゝり　之道
栗柄とゝゝゝく鄙の初月数　半殘
月見ちん 伏見の城の 拝殿　支朱
菊を茅舎ニ高ゝて
おもしろう 松うきもえよ 月程　土芳
かゝる義ヲ語 去て ゑ涙のかゝる

山家集ニたちまちとアリ
やがてこゝにたちてゝゑ涙のかゝる
ものゝ いかにとおもふにころも
幣
賀茂ノ末社 棚尾ノ社

髻ナリ

ふとかの上人のたなこの乃
社乃神 塩よ ゆつきてゝみ
しやや

自かけや 抱ものく 孫の上　史邦
友ちの古 條ものかゝりいく
とてまりいるふ
かけ法師 ものき尺 送る 月程　卓袋
芭蕉業やおこ 約月のかけ　乙弱
京筆紫去年の月よ 僧仲宮　丈草
咲ものの ちゝよ 月ゝ　凡兆
降てゝ 賀ゝ 寄ゝ 月ゝ　尚白

気比明神ハ越前一宮ニ仲哀天皇ヲ祀ル
巫ノ二世他阿上人ノ古例ヨリ細道紀行ニ委シ

猶子ハ甥ナリ
かる衣ハ斯有夜ナリ

大和物語花山僧正ノ古事ヲ云ケリ

向のよき富士見ん事こそ　芭蕉

元禄二年つるの湊より月を見ん
象潟の俳諧ハ芭蕉翁上人の
古例我ガ

自清　松の緑の色ハ雪ふり積る砂の上　芭蕉

仲秋の望ハ我送葬して
かる衣の月ハ見ふり明迎ふ　去来

明月や雲ハ雲の業ならん　昌房
月ハ人の為ならぬ　羽紅
俳諧のいまだ少年のきめる　尚白
初潮や鳴つの浦ハ鹿御ん舟　元水

一ノ戸陸奥南部領ナリ

雛又黄頰魚
和名抄ニ鱸知ヽ加布里似ニ鰹魚ニ而有黒點コレニヨツテ書ケカ
和尓雅ニ鱸トス續虚果ニ鱸トアリ
王安石詩ニ茅檐相對坐終日
鳥不鳴山更幽
むつゝ〳〵と云し冬ノ題誤リテ爰ニ入カ

小ヨ鱸ト云大ヲ鱸ト云

一戸や花も雪なる弱むぐら　去来
稗の種のこる迄こる蓬ヶ島　哉人
浪華やかゝる時も時雨　西鶴
ひやひやとてきゝうなる蟬ヶ沢　嵐蘭

一鳥不鳴山更幽

物の音ひとつ残るかゝしかな　元水
むつゝしき拍子ハ人ハ里秋乗　夢良
松扶廉のつき合ふ秋の下　千里
松ヶ浦や潮干の蓬麦畠　路頭
ちりと下ル秋の天　元水
鱸釣ふなしし　不角

田舍閑ト云ハ五尺八寸京間ハ六尺三寸ヨリ五元集ニ菜園ト題アリ

童子ノ又髪君髪

柿主ハ去来自戒ニイハク

咬定カ俳諧哥ヲ前書ニ用ヒシヨリ

田舍ぬの蕎麦ばたけ　菜の花　尚白

菜を切ぬとりの子ども　雲角

高生る丸の鶏の明るや雲ちぎれ　珍碩

らぬぬの知もちらぬ稲の秋　太芳

稲こうつく母ヨ出迎ふ子の家　九兆

自頌義仲舎

物ぬしや梢ハちらぬ山　去来

去ぬ法ゆゆしく格の下紅葉　壁生

孤宅ハ冬ハ山の蕎麦の葉　九兆

神田祭

されいなを比丘の拍子の行ぎるの乱

大名衆ハ〇〇敬言固ヲ云リ

風疹　和名抄ニ風癮疹ト有

ちさこうふハ〇〇〇〇〇〇

勸進帳正月廿九日月次興行通題梅一ノ

神田祭の鞍ぬの音　牧是

拍子ハ一ぬつ〇〇〇〇〇

芭蕉大名高ぬ〇〇〇〇〇　蕉雨

行秋の甲ぬ〇〇〇〇〇〇　丈草

立出る秋の〇〇〇〇〇〇　九兆

世の中ハ鞍鐙の音の涼ぬ　同

塩魚の臭ふ〇〇〇〇〇秋の音　蕉雨

猿蓑集巻之四

春

梅咲て人の恕乃梅もなり　蕉沾

上鵜ハ菊再度ちらしの事
ハ奥家に仕ニ入ル

碧巖云隔牆見角便知其牛意より

家隆卿之歌に見る事なるべ
き和ゆるの白ちらし彩路の秋
のたの初ちら

清ちるを太神宮の神饌を
はじめとして其居る処を良
佐と云事紙上餘のちらし

上鵜の山茶ちらしくるる候

梅ちるや山茶櫨のる犬のふぐり　吉年
梅ちるやふるハ黒ハ牛の角　白室
度毎

梅ちるや砂利敷流す茶の実　土芳
初梅や貴ちきかるもの梅の花　李雖
梅ちるや流の面ひのたるたき　勝所 梅の嵐
うえの水やはこ筋を義のたう　玉角
清ちるを太神宮の一ちとゆく一梅の花　芭蕉

清一本古き梅ちる其外勇
てちらしとゆり

林和靖七言律詩に疎影横
斜水清浅暗香浮動月黄昏

元禄四年辛未ちり

疫毒や作り事なれの形の梅　子耶
灰捨てる日梅ちる毛塩梅ちる　元兆
日高ちの梅咲こちや屠牛房　支考
暗香浮動月黄昏
八ちの梅ゆり込ひちをれ　風麦
武行ちるおもむく梅ちの夢
痛ちをきの細目や雪の梅　乙郎
辛未ちとしちの梅ちの
ちしちの山みるを梅の白ひ
ちちの梅ちをれ旧友歳重ち
八ちの梅のちやちひを雪の白ちを

百八煩悩の事を
赤染衛門の寺に闇の夜を
かねて思ふことを寝られ
云し

ひか雪をみてろひふるまゝの中に
おもひ侍りても折にふれて感動
身にしみてらの酒も猶さき立
なれにし人の夢にむかしのやみ
えて悦ぶけしきなる七人有りく
風雅をしたはるゝや

夢さめてまた一日ハ宵の梅　嵐雪

百八のかねて迷ひや闇の梅　其角

ひとり寝もよきやねがひん初子日　去来

掛鳥や鳥追のけて摘む若菜　史邦

初市や雪に漕来る若菜舟　嵐蘭

宵の月西に出たるのきこゆなり　如行

憶ハ念也思也

憶翁之客中

袂折て菜をつまんと草枕　嵐雪

摘捨て踏付ふるき若菜かな　路通

七種や跡にうかるゝ朝からす　其角

家々と鰯の頭し根芹かな　丈草

薺やうつなに咲る芹のはな　其角

織とハ松の黒さよ有我けり　同

緯ゐなき来ぬ衣と思ハ織之　去来

雪の雪踏若草植種ハ否　イカ 一桐

雪やちゞや一都の春りこのお　エト 洒石

去る良ハ仕まつりし良之

うらのきやなぎちらし礼ノ一　其角
雪やゝ弱の霜まつく畑の土　凡兆
雪ふる夜ゝ人をまつ鳥ハ　イカ魚日
籾の空柳ちらハ枯ちらし　探丸
ほ痛ハさらしの打つき柳うな　エト卜宅
堤ちまちて数寸柳ハ那　円竜水
ちらし川柳雪ふる柳ハ　尚白
青柳の青ちれ中の住変　イカ一笑
雪汁や柳ゝの塩のまく　同木白
結弔の雪ふるやちらし　揚水

田家ふるさと

ガ
瘤ハ猫ノ腰カケト見立シ之

此ところ川ハ田溝ヲイヘリ

ちゝ月ニ二廿日正月ノ比カ

去来抄ニハ俗情ノヨシニ言ト去来文ニハ定ルヤの猫の恋の彩ふ ちゝて越人ノ秀作トアリ

當座ハ今ノ通題ナリ

ツサ
莞莚

骨柴ハ枯柴也

ちゝ活芸ハ紀州ノ方ヤツ

麦ふるやちらし恋ノ猫の雪　芭蕉
ちらやちらし一里ひきの猫の恋　越人
うき方ふるかまれて猫の出ちらめ　去来

當座ノ題

麦ふるぬきまぬ宮の双羽織　毫雨
那の梅のちらし一日さらず二月ノ　尚白
出かりや撫ふたるちらの丈　乗菊
出代や幼子ちらし出ぬ　荒雲
骨柴の刈られちらしもの茅小　凡兆
白魚や活苦ハ下駄の冥合せ　玉角
人のちらしられて活やさて活苦　ヲハリ杉峯

たゝおらしハ春田畑ヲ耕し
おこすヲ云

虚木立芽出シ支前ヲ云ス
荘子獨見二日ノ野馬田間浮氣
名之為陽燄
柴胡ハ曠野ニ生ス原本柴胡の糸
三作ル芽出シノ細キヲ云カ按ルニ
原ノ書損ニヤ糸原相似タリ

元志
芦の芽
百蕨
土芳
氷固
凡兆
芭蕉
配力
嵐雪
路通
世水

今ヤ詞ニテ帰雁トハナセリ

その門ハ雲ノ生る宮ヲ云

田蓑の島ハ摂州西生郡ナリ
今ハ北濱ト云

畦ゝうゝと云未書損のゝ
彼ノ抄ニ見エタリ
畦ハ區ナリ茶茄有畦

凡兆
沢雉
嵐虎

猿蓑
芭蕉
史邦
服紅
史邦
昌房
去来

元禄以雛の使ト云事アリソ姿カ

田螺ヲ腸ト見立ル

短冊ハ葱ノ花ナリ

加賀ノ白山ナリ

漆文選注雨水流於地者

こもくハ芥ナリ

衝の巣ハ諸説アレトコニ出ハヲ以テ春ト定ムヘキカ

春風なこうまの雛の雪の元
桃柳ゆらぬ女の子
桃の色塗ぬる地机
里人の雛祭る田螺なる
蝶の来て一枚寝ぬる葱の畝
なき雪ぬきて白魚の殺をり 我
いらの雪ぬる寒ぬもぬや 漆
白のかけやこもくの立の新芽
蕨鞠ふむ者や雀や椿の元
雪の数や巣をまもる衝
越ぬる乾弾一ぬと乾の浦の

萩子 イカ
羽和
烏巣 ミカハ
寒推
半残
桃妖 カ山中
園風 イカ
珍頑
土芳
芭蕉

嵯峨日記ニハむろ〜漆繻
茂ヘ〜ヒ 堇草トアリ一本
カ

ぬやう書ぬくとなるもまま山行
ぬ山ぬ
鶯の巣の樺の枯枝ゆ八百
寒ぬ雪ぬ尺ぬ雪ぬ中ぬ
ゆ雪ぬ中ぬ雪ぬ雪の高ぬ
ゆ行ぬ雪ぬ雪ぬ者の高ぬ
ぬ雪ぬ中ぬ雪ぬ雪ぬ
芭蕉庵のふるき跡
堇草ゆ編笠ゆ〜ぬ
木ぬ筋ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ

凡兆
石口 イカ
杉雪
芭蕉

曲水
山店 ユト

畫讃
山吹や宇治の焙炉の白ぬ時 芭蕉

白玉椿ヲ云花ハ八重ナリ
キハツクハ際立ヲ云リ

髪梳（クシケズリ）

梅の白玉の歯ぐき

小坊主の鬼逃ヒナトノ戯カ

白玉の歯ぐきハつく椿ゝ形　車来
歯ぐかりかくれ病ちちり歯数
けつらゝ
ら一て
笋も椿もむ一やうり椿　胆江
蝸牛おかふきこるつきこりれ　津国山本 坂上氏
笋も笋歯ゝる椿の郎　芭蕉
初たくらまく逆ゝ咲ハて　イカ 利重
東叡山ゝ椿ふ
小坊主やれかれて山きくら　葵角
一枝いきゝぬもろし山きくゝ　尚石

ハツク
小端ナリ 笞ゝト云ハ非ナリ
非八午時ノ食也僧祇律三日
午時ノ日影過ニ髪一瞬即是
非時ナリ
一言主神ノカタチ見ニクキ事
清輔カ奥儀抄ニモ見エタリ
上東門院ノ御時金野ノ庄ヲ
分チ花垣ノ庄ト名付テ八重
椿ノ料ニ附セラレシトカヤ

谷中ハ東叡山ノ乾ニアリ

歯の白玉ゝさくら　九鬼
笞ゝ一椿ちんちる椿　文子
ちゝかのちゝ　史邦
椿ゝ椿ゝ椿ゝ　子郎
蔦球のゆゝ椿ゝ
椿ゝ一むゝ椿の国ゝ椿の庄ハゝかゝ　芭蕉
伊勢の国ゝ椿の庄ハゝかゝ
家ゝの八重椿の郎ゝ附ゝ
ゝゝゝと云ゝ伝ゝ
一里ハ椿ゝむゝちの孫ゝ　田
三文の墓東武百年ゝゝ

江談抄ニ曰玄賓僧都ガ遁世する時をつむハ山水きよしみとおもわきにあはれにすまんれけれ
空穂ハ矢を蔵物也

元禄のそのかみ翁廿年の後かの地
にまかり墓のあたり桜植置
侍るよしかねし母の為にかくつ
くりて平桜を我後にも絶
の墓桜さくらに咲みてられ侍きハ　園風

まかりしや世の翁の後の花盛り　去来

知人はおもしろく思ひん花の雲　凡兆

孫る縁の縁にしみの花の春　　

浪人のまとゐて

草せた恵の柱はなれぬ花ざかり　半残

腰きてかの窓中の花の(?)哉　伊賀 長眉

道灌山ハ東叡山ノ北ニ当ル暮ノ里ニアリ文明十八年鎌倉ニテ討死ス
源氏須磨ノ巻ノ画ニや
まきれつるの乙の様をおもしろうてもと云ぬ也

むかし寐ぬるに桜より外(?)涼しく　

咲しかな

たる奈やよしなく寒の花の果　曽良

道灌山にての遊

なら屋や思ひその代を花衣　嵐雪

源氏の画を見て

須磨ハ狭ちる花の立所　羽紅

庚午の歳家を焼て

焼にけりされども花ハちりすまじ　加賀 北枝

むかしや伽藍の縁をとり行　凡兆

海棠の花も涼しり梅の月　江戸 暑紅

行脚ハ重荒ニ云謂遠離郷里
脚行天下脱情抛累尋訪
師友求法證悟也

義仲ハ元暦元年正月廿日粟津
ノ原ニテ討カ生食カ石ニ成テ
云對ニテノ作カ

堂龍りの句翁ニ同寄アリ曽
良ニ与ヘ玉フヤ
伝春ノ句詞云来抄ニ委シ古
今ニリふれれあつまるお
も一ともノ一轉カ又杜律ニ
明年此會知誰健ヲ含ムニヤ

大和の国の境の所
茅舎かるまちや蕨の芽ぶ　芭蕉
山ゆるや蹴ぬ程よけ行尾の秋　探丸
山つゝ波よ尺とゝ夕日新　智内
ちかくして秋のむつまじ鹿ぶ　山川
鷺の翼ちゝ初てうつ山秋ぶ　伊賀 武之
本曽路
其赤の石ともかゝれ本曽のち　乙孔
赤の根ハ雲ハ初秋の里蕨り　雪良
望湖水惜春
行春を近江の人とをしむらん　芭蕉

此ものハ歎息ノるニテ此の有無
の論アリ又和歌ニ此結ニ多シ
綾格ノ三

白氏文集巻二々刷毛衣ヲ

三草紙ニ翁曰猿蓑ハ脇ヲ三
ヲ三體ヲ仕分テ上ヲ主ヲ
ヲ分テ乃ち〳〵ト上リ
ヲ〳〵ト云ルニヨリ雪ノ字打
越論ナキニヤ

目利安ノ足袋元禄ノ頃行シニヤ

猿蓑集巻之五

去来

ものの羽も刷ぬちらし〳〵れ　芭蕉
一ふき風の本の桑ちつる　凡兆
稲刈の鳥ぬるゝ川出えて　史邦
ちぬきをおろす蓮池のち　蕉
まいふ戸ゝ雲遠かゝる富の月　来
人ゝも之れを名ぬの梨　邦
出ちくる墨をかゝく社蕎ち　兆
ちきちちよちちの足袋　来
ひるも雲言のうちに出つちなり

千載ニ[illegible]年の貝とを[illegible]つなれいつ[illegible]の行[illegible]こと[illegible]
つ[illegible]ら[illegible]　時貞ヲ云
[illegible]
[illegible]ト因しく始付タルヲ云
蓮ヲ草尖蓉ト云リ
肥後水前寺海苔也

原水盧同ク誤字全ナリ
古文前集ニ彈退之寄盧仝　詩中ニ如長髪ニ不裹頭
一婢赤脚ニ老無歯

雪ケト、雪ケト、雪ケトヲ[illegible]

[illegible]て年の貝つく　蕉
[illegible]る去年の[illegible]　北
芙蓉の[illegible]　邦
吸ものに[illegible]出来されし[illegible]　蕉
[illegible]の[illegible]　来
此[illegible]も盧仝の男[illegible]て　邦
[illegible]木つきもる月の[illegible]　北
苦[illegible]ふ[illegible]水[illegible]　蕉
[illegible]の[illegible]　来
いち[illegible]二日の[illegible]て亟　北
[illegible]の[illegible]　邦

ヲ言ヒ
堀川百首ニ[illegible]
[illegible]
源氏夕貞ノ巻ノ面影ヨリ煩ヘル人ハ大貳乳母ヨリ

セハシ
開ヨリ世話シニテハ假名違ヘリ
世話トセハシハ別意ヨリ

湖水の句三ツノ字心ヲ附ヘシ
古今著聞集ニ[illegible]人長持[illegible]

[illegible]ー[illegible]
[illegible]
疫骨の[illegible]　邦
[illegible]を[illegible]て車引[illegible]　北
[illegible]殼[illegible]　蕉
いか[illegible]れの力[illegible]　来
せ[illegible]け[illegible]　北
[illegible]　邦
[illegible]月の[illegible]ふけ　来
[illegible]の秋の[illegible]の　蕉
[illegible]戸や[illegible]　邦

鑪鞴（クヽニ）の火（ほ）を吹（ふ）くなり　鑄物師（いもじ）鍛冶（かじ）作り職人尽（しきにんづくし）格も有へし

鰡（ボラ）魚（うを）鰤一種多く乾魚（ほしうを）とす

ぬのこ雪ふる風の夕されば　北
押合て寐て又立仮まくら　蕉
ゆくらのやうなる雪の中の寐覚　来
一撰鍛冶（ひとつのこしらへかじ）つくる世の中の人　越
枇杷の古葉に本の芽もえ立　邦

去来九　芭蕉九　凡兆九　史邦七

市中は物の匂ひや夜の月　凡兆
たつしくを門くるの祭り　芭蕉
二番子ふるまひ果て畢て　去来
庶らち多くくるる一枚　北

東鑑に調柏子とあり

笠勝左衛門繁氏法然上人の
末子なり法名等阿世に刈萱
道心と云其所に出くるまくを
花もちゝぬ月まくらのよそ
よりくるあるしかな
七尾撰集抄に見仏上人の事
あるに古為ぶる三て咲る
小はつは未摘花の巻に
為ますアリ　徳俗訓なり

生命は知れぬ夏中さよ　蕉
多くと泣いすゝ〻ーこ生き猫　来
なむふ性こ泣る夕百蕎　北
蔵の芽とうの蛙ゆうに　蕉
蕎麦のおくうはむの一番目時　来
孤松の七尾の名は住らき　北
奥の背高ふる迄の蕎麦　蕉
移人ふし　山はつの猫　来
立かう屏風を倒す女子　北
酒屋と外の蓑のる傳き　蕉
猫番の宮を吹屋寸ちあし　来

赤草紙ニ僧猿蓑ノ句二人のら撰を一句と一世のら撰を附たん對附より地さい年貢ン

黒ほくハ黒土ン

さ雑句ニ附トリ此ゝゝ、俗ノ句ン不意ノ詞カ

天上守ハ唐辛子ナリ

又句ニ附ト赤草紙ニ委シ

俳諧ハ宮くに寄よう〳〵る

樵ハの樵ゝ堅ゝ結る秋の月　蕉

年よ一斗の地よ地かゝ　来

五ち牽牛生来つけ先る　兆

星霜端ゝ江黒ほくの反　蕉

追ゝて早きゝての口指　来

てつちの蕉ゝの京ゝゝ　兆

戸陰ゝ却ゝ地ゝの麦冠安　蕉

ちん地ゝちゝ以ゝ名つく　来

ゝゝゝ学鞋を作る角形し　兆

蕉を入ゝよ社一初秋　蕉

去来抄ニ翁曰草蘆ノ句西行能因ゝの撓果ゝゝゝゝ一只面影ゝ付ハ一ト夫来文ニモ同趣ナリ

浮世の果ハノ句雑談集ニ委シ

一本何れゝヲ平ニ誤ル

掌ニ20迫初五文字ニ四績ケリ古ハノ寛宥思ハシ

ゝの俳ゝゝ蕉ゝる升蕉　来

ゆゝみて蘆の花の如き撓　兆

学蕉ゝ点ゝ居ゝ赤ゝ　蕉

いゝちゝ蛙一き撰集のゝく　来

ゝゝ点かゝゝゝ点ゝ　兆

浮世の果を皆小町心　蕉

句ゝゝ繻ゝゝる洞ゝ　来

法華ゝゝれ廣き柏葉　兆

ゝの年よ風遠ゝる志の句け　蕉

かゝゝゝうゝの如堂の梅ゝき　来

元禄十二　芭蕉十二　去来十二

酒又椋トモ云一釜子ヲ長法
莖ヲトル酒三ヤ

出家集三子代ヲ[illegible]
ら[illegible]
[illegible]
[illegible]

摩耶ノ攝津ニ佛母摩耶山
切利天上寺觀世音并ニ摩
耶夫人安置
[illegible]魚子
ロ[illegible]

原汁桶の雲をうつしきりて
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

丸兆

芭蕉
北水
去來
蕉
兆
來
水
兆
蕉

西念諸説紛々只面影トミルヘシ
出家集ニ吹ヶせの名ヲ[illegible]
[illegible]
[illegible]
酢莖ハ下学集ニ韲ト見エタリ
莖漬ノ一種

[illegible]
[illegible]
金鍔[illegible]
[illegible]
町内の秋も[illegible]
[illegible]
本雲の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

水
來
蕉
兆
水
來
蕉
兆
水
來
兆

らくらくハ有明行灯ノ
冷ナミ

屋の二の屋根ふきものおもひをる
ちるよりのわり思ふ人ハ雲井
おゝ二龍膳を思草トアリ
ちるハ墓ちる
秋季ノ扱心スヘシ
ひのちるハ赤渋ナリ

死生事大無常迅速

旅の路ちるはくらくおく　蕉
きさきしきゝ女の智恵もあるべし　朱
ひおもひそ粮のしたうく　水
夕月秋家の墻初の花ちる　蕉
人もちるれ一ちるぶのあ　兆
うちつきよ自慢いきをぶ　水
みもたるの飯ちう出次　朱
堤う田のまやきていきとのき　兆
かゝの社ちよき社し　蕉
物貴の風聲高く名条まて　朱
百の屋ちうの母屋迅速　水

横ヲ正花ニ用ヒシハ祖翁一世二来
ノミカ芭蕉談ニ変シ初心猥ニ
作ルヘカラス

餞ノ吟長途ノ景物ヲ想像（オモヒヤ）
モヘリ

ちるやハ形うよ、意ナリ
和名抄薬之変岐三才図繪以
糯餐今ハ生米ヲ以テ餅ノ形ナ

蕉　昼時る書ま塗ま方のちきよ
兆　ちうちうあるよ蘭のちまく塗
朱　糸横孩一ちるよ咲ちうに
水　ちハ三月喧のちう
九兆九芭蕉九野水九去来九

餞乙刀東武行　芭蕉

梅茶菜ちうこの宿のちうく汁　乙刀
釜あくくきまの吟むの　拙硯
ちちう在ハ山田よ去指ちうちなれ
ちちうき祝くてしちれまちう　素男

三作ル物ニコヽニハ只祝ト見ルベキカ
病体ナレト尤モ軽シ

山家集ニさゝら山浮雲をよそうきてゝいうなりの
ゆかりなるらん。去年文ニ宝
の西行をおもひのもるる日は
いとアリ
箕手甲陽軍鑑ニアリ小西
行長ノ臣小堀内蔵頭ノ
萩の札云云ハ去来文ニ撰集
抄の故事を取リ外リ薄刈
萱女郎花をよ折てゝ
よ残るまて札を付るるる人
ゝ

汐隅よ虫歯かゝえて誉の月　石
二階の窓ハ高かれる蓮　蓮
敷ものゝ踊ハ又えもさん　男
稲の穂延のちゝ形よ　砂
鼓山の初よこゆる鹿山　蓮
内義所かと呼ハ　弱
印の刻の淺よ音ふ小西　砂
ちゝさる松のちゝ形　男
萩の札落の れよみ　弱
者かゝる酒香の一　皆月
懐よ手をかゝむる秋の月　九兆

外海より
懐ふ絶の栖ふ春の日ふ月女
字並ヒテ今人ハ嫌ハケレト古
人カル瑣ゝタルコハ論サル事

職人尽歌合ニ
うちなる物のたゝ
るのかなハさゝ

汐さゝ
絶の栖ふ立春ゝる春の雪　去来
灰蒔ちゝ人かし菜の花　兆
春の日よ住舞てゝる　旋　机　正秀
庄屋ものゝ子供のゝ　来
汗ぬゝ川端の春ゝの弟　半残
如ものゝ　き　鶏の　下　五芳
大膳ふ知ゝ　ゝ　残
牙ハぬ　れ我の取ふ　芳
小力の格　月ちる　和工ゝ　残
棚ふ大ゝ　ふ大ゝ　の和　園松

思ふ便りとハすまぬ下也
むね打合せハ猫切きりぎりす
ぐるりノ之繞
咳声（シハブキ）
小面ハオ覚ノ事こくめいハ正直ノ事ナリトイヘトモ同語ニテ
音便ノ遠ヒノミカ
會津ハ奥州

句引十六人ノ俳名畧ス

寝らハおもふ便りも須磨の浦　猿雖
むね打合せ見ゆる肩衣　残
遠夜もかかわ見をくる破扇　風
燈油移きせて走り見ぬる　雖
咳声の隣ハちかき縁つたひ　芳
添ハぬふみをあつくかんな款　風
肌あさき猿をこくめいなる会津盆　嵐蘭
蕎ウる供の割下駄　史邦
ものきこえしのつれも定メ　野水
雛の袂を染る春かぜ　羽紅

幻ハ金剛経ニ如夢幻泡影
住ハ止也居也　庵ハ小草舎也　芭蕉ハ姑
菴閑ハ此草老翁可設益還復菴
閑故名　記ハ志也一々分別ニ記之
也
岩間山正法寺ノ後山ヲ国分山ト云
聖武天皇天平九年詔天下毎
州建国分寺
杜律注ニ山未及上ヲ翠微ト云半腹
ノ一歩ハ六尺ヲ云
國分村鎮守近津尾八幡宮ナリ
東見記日本神道有三種一曰唯
一宗源二曰両部習合三曰本迹
縁起
諸神鎮座記ニ八幡大菩薩本
地阿弥陀如来也
老子曰和其光同其塵ト云云
上文年久シキヲ云

猿蓑集巻之六

幻住庵記

芭蕉艸

石山の奥岩間のうしろに山有
国分山といふそのかみ国分寺の名
を伝ふなるへし麓に細き流を渡りて
翠微に登る事三曲二百歩にして八幡
宮たゝせたまふ神体ハ弥陀の尊像
とかや唯一の家にハ甚忌なる事を両
部光を和け利益（ヤク）の塵を同うし
たまふも又貴し日比ハ人の詣さり
けれハいとゝ神さひ物しつかなる傍（カタハラ）に

蓬 是げにあれたる宿の月
それハむぐら侍らんなきやさ
西行
古ちの軒の稀はいつの間れてあ
れ狐の住家となりて後京極
人すまで籬も荒にし宿に狸
のこまでてくちなれ 寂蓮
菅沼氏曲水子ハ膳所侯ノ家士
幻住老人ハ同侯ノ長臣本多八郎
左エ門ト称シ探山居士ト号ス天
和三年没セラレシニヤ
市中ヲ去ハ十年 千八天和初
ヨリヲ云
元禄三年ハ翁四十七歳ナリ
みの虫のみのや失た哥の枕を
父こよ母よと鳴きし ぬる
夫木集ニ家をまてぬ八おを
しからみりちニまふ足くもわ
いぬ世なれと
家出のしき家をきたる身と
ノ句有
去年をまたる波のうへ[illegible]

住すてし草の戸有蓬根笹軒
をかこみ屋根もり壁落て狐狸ふし
どを得たり幻住庵といふあるじの僧何
がしハ勇士菅沼氏曲水子の伯父になん
侍りしを今ハ八年(ヤトセ)計昔に成て正に
幻住老人の名をのミ残せり予又市中
をさる事十年計にして五十年(イソヂ)やゝ
ちかき身ハ蓑虫のみのを失ひ蝸牛(カタツムリ)家
を離れて奥羽象潟の暑き日に面
をこがし高すなごあゆミくるしき北海
の荒磯にきびす破りて今歳(コトシ)湖水

ここのひきてなのゆくくろしきこの
蘆濱 能因
蹉(キヒス)
夫木集ニかくきさや鳩のうき
巣のいつみてきたにひとる
世をあちむらん 鳩ハ俗にかい
つぶりと云
茨ハ字典ニ以茅覆屋也ト見エ
タリ
山家集ニよしの山やがて出じと
おもふ身を花ちりなばと人
やまつらん
さすがハ流石と書くうすり
山家集ニ山をうけ[illegible]
まてにハくれぬ
鵜くも家にて
杜鵑鳥ノ名ナリ 詞トモ燕トモ云リ
そゞろハ坐也無故自吟ニ用
杜律ニ呉楚東南坼乾坤日夜
浮 又杜律ニ瀟湘洞庭虚應
望楚天不断四時雨

の波にたゞよふ鳰の浮巣の流とゞまる
べき蘆の一本の陰たのもしく軒端(ノキバ)
茨あらため垣根結添なとして
卯月の初いとかりそめに入し山のや
がて出じとさへおもひそみぬさすがに
春の名残も遠からずつゝじ咲残り
山藤松に懸て時鳥しばしば過る程宿
かし鳥の便さへ有を木つゝきのつゝくとも
いとはじなどそゞろに興じて魂呉楚
東南にはしり身ハ瀟湘洞庭に立つ
山ハ未申にそばだち人家よきほどに隔り

唐太宗詩薰風自南来殿閣生微涼
孟浩然洞庭湖詩涵虚混太清
比叡山　城膳所ヲ云　槇ハ梵多ヲ云
夫木集ニ松ヲ
生ぬらんむるる雨笠とりの
笠取山ハ山城宇治郡ニテ醍醐
南木幡山ノ東ニアリ
拾玉集ニ大井川星ニ浪ヲ
いぬれわさるる
山家集ニ松人の
ゆ
土峯ハ不二ヲ云
おもかるるの山の
武蔵野のおき
ニアリ

ゆ南薫峯より起り北風海を
漫して深一日枝の山ハ
辛崎の松を霞こめて
弱くも毎日笠取の
林麓の山田の苗
夕雲の雲ハ水鏡の
物してあらんとこそ
之上山ハ土峯の傍
聖の宮き栖もなひいてられ田と
山上古人をかたふきふる
峯猿猶ものふ山あり黒津の里ハ

貫之ノ社俊頼ノ古跡等用上山
ノ辺ニアリ
篠生嶽江州栗田郡ニアリ
名寄ニ田のとのくもりくもれも
しくるるかりくやよゆるの記案
しめらん
千丈ノ峯モ同シ
ハ千丈ノ峯ニアタリ南ニアタリ黒
津ハ近江甲賀郡田上山ノ麓ニ
綱代ノ事ハ讀ル歌諸説未
詳
限なくなり
文選遵暑結松棚又陳元信
詩旋斫松枝架作棚
山谷詩集題潯峯閣云徐
老海棠巣上王公羽主簿峯
奄梅蕊破顔冰雪緑蔵不見
黄柑注曰徐徐隠棲道
肆中家有海棠數株結巣
其上時与客飲其間王道
參禅四方結屋主簿峯上
嘗有毛人至其間問道云云

いとなくなり
巣集の
なくなり
藻の
彼海
る
長
見
多
城
一

人の陳ず四方に行て多く
みるものきくもの形〳〵捨仏一宮
を編て拾の物をさむ乃ち文殊と
つくこの生ふつくりさるを筑紫高野
山の僧正ちかの茂の甲婆伽うう
叢あるそきこひ海よの面りいまそ
かりけるを行る人拾て額をとらふ
いとをしくと事を際て幻住庵の之
言我おくらる我て高尾の記念と
なりぬ山居よりひ旅の情と云さ
る繁多はいふ所なる形本雪の橋

睡癖ハ宋書陳摶癖史季
嚴老眠ヲ好メリ其余五雜
俎等ニ癖ノ人多シ
屠頒東坡詩唯要爾脚飛
屠顔王子端詩簷外屠顔
皆好山云云
石林詩話ニ青山捫氣坐黄
鳥挾書眠
[illegible]
[illegible]
西行ノ歌カ未詳
僧正笠後御井郡高良山不
濡山運基堂院主一如僧正ノ
加茂ノ祠官藤原甲斐守敦直
寛永比ノ能書ニテ親子ト共
師流ナリ北向雲竹佐ク木志
津ヲモ敦直門人ナリ
カタミ
記念遊仙窟
おくらる贈之
[illegible]ハ然ル器ナリ

古文前集朱晦菴雲谷雜詠
野人載酒来農談日西夕
張謂詩夜坐不厭胡上月
又白氏文集卷十抱膝灯前
影伴身
荘子罔両問景曰曩子行
今子止曩子坐今子起
問罔両影外之微陰也
ヒカリ
輝ナリヤ・音便ウくり

笠越の茂蓑半枕の上の松ちのけう
雲ハ錦〳〵くるをうらふ人くる日暮を新〳〵
ちの人ハ宮ちの菊里のそのこせ分まて
るの主ちの稲ちいあふ〳〵完の豆畑ふ
うふちて我ゆ寺ハ農談日改ま山
の塔ふかゆ思ハ枕屋野ふ月を結ていい
新を結ひ灯をれて八間両ふて涙を
こふ生かく之ちてひくふる不家窪を
ぬく山ちの孫をかくをむふ行ちや
病身ふ伴て世をうひ一人ふ行ふう
詩年月の移う一枕き月の秋を

仕官懸命ハ君ヨ仕ヘて俸禄
領知ヲ乞ウヤムヤ
恵能禅師吾三十而宗規佛
籬祖室
ものゝ形ハ原本又翁自書
巻物ニモ斯アリ風俗文選ニハ
ものゝ形文風セトアリタト
ハ方よき意カ因云ヒ文ノ附カナ
自書巻ノ假名ヲ寫
生涯荘子ニ吾生也有涯
白氏文集燒詩役五臓神
酒渕三丹田元稹ノ詩ヲ引ハ非
ナリ
李白寄杜甫詩飯顆山頭
逢杜甫頭戴笠子日卓午
為問緑何大瘦生只為從
前作詩苦
白氏文集燒賢愚共雪落
論語注商尚質周尚文
山家集ものゝあはれなる
おもひなるものゝ形ハ仕官懸命の地をうら
やましく一ものゝ佛籬祖室の窟ヲ
入んとせしものゝ風雅
ものゝ身をもてなす情を分して
ものゝ風セトアリタトさへなれハ
ものゝ生涯のもてなすとさへなれハ
ものゝ生涯のもてなすとさへなれハ
樂天の流の神をやうやう老れハ
たりぬ賢愚文質の分かたるも
いまものゝ幻の極をもてなすもおもひ
ものゝむ程のものゝ

おもひ
ものゝ
下枝
万葉集ニ斤岡の山もりつくる
ものゝ年の後の新もり
ものゝ
源氏椎ノ本の巻ニいうなる水の
ものゝもりくるものゝむすばんと
やて云云
足後為跋故書文字後昌跋

琵湖ハ琵琶湖ヨリ
欝 茂盛貌

題芭蕉翁國分山幻住庵
記之後

何世無隠士以心隠為賢也何
憂無山川風景因人美也間讀
芭蕉翁幻住庵記乃識其賢且
知山川得其人而益美矣可謂
人與山川共相得焉迺作鄙章
一篇歌之曰
琵湖南兮國分嶺
古松欝兮緑陰清

徒有佳美之徳ナリ翁ヨサ
満口錦繡ハ幻住庵記ヲサス
依稀ハ髣髴ナリ
勝覧ハ名所ニ同シ

震軒自井元端字履信号仁島
子又向震軒ト云去来ノ兄ナリ
具ハ供具也草ハ草稿也
伊勢ノ震風又大草ナト云ヲ
ハ推量違ヒナリ

茅屋竹掾繞數間
内有佳人獨養生
滿口錦繡輝山川
風景依稀入誹城
此地自古富勝覧
今日因君尚益榮

元禄庚午仲秋日
震軒具草

幻住庵契右日記ノ句ハ庵ノ閑静
ト勝地ノ眺望ト翁ノ幽操トヲ
賞セル作ナリ

ミつさめハ翁ノ嘆ヲ云リ

ミゝゝ時ハ鶏の乱レ鳴時ヲイフ

海ハ湖ナリ

岩梨ハ常ノ梨ヨリ花遅キ一種
アリ和名抄稿ノ夜未奈之山梨也
細腰ハ俗ニ云ヤセすねナリコレモ
ハ羽ヲ云

ミゝハ盛ナリ御佛餉ハ
ミのの結ヒナリ

儿右日記

曲水
玉水
去来
凡兆
多那
珍碩

時雨降ぬ
ミつさめの
翁ミゝ
海ハ
岩梨の
細腰の

賜紙帳

紙帳
墨東
乙弟

花空木（ウツギ）

多らく〜ハ覚束ナク又不案内ト云コトリ方業ヲ聞者路多豆多頭四ト云ニ同シ

訪（トフ）ハ音問（オトヅレ）ナリ

多ク云テハ抱ノ義ナリ

顔（カホ）や津の国のむらつき　セ、姫淮

多らく〜ハ覚束ナク又不案内ト云コトリ方業ヲ聞者路　探志

五羽ハ五羽ハ雁ナリ雁ハ雁ノ字ヲ書ク　元志

本つをを不わくてゆるる秋ハ　セ、泥土

笠ハ笠ハ笠ハ　史邦

月ハ月ハ海を風ハ月ハ　西秀

きつのさく栗の栗ハ清ハ　天、柳陰

ゆ〜さくやとまとまる来ハ　如行

訪ハ音問ナリ　セ、朴水

桂の木を多ク云テハ抱ノ義ナリ　三ノ魚井　市隠

月の下やく多ク云テハ抱ノ義ナリ

膳所ハ上米の上地ナリ

麨（ハツタイ）ハ麦の粉ノ

書音ハ文の便リノ

一反ハ反節のこと

さいらいはるとハ云カ

行歌正字ナリ

文ハ書出ニテ　半鈴

稲ハ米や苗の多ひよ夕涼

麦の粉を土産に

一袋これや多和田のこ〜麦　之道

書音

一反ハ山ハ山ハ鹿毛好　長崎　魯町

夕立や桂の奥の一土ツより　及肩

昇（ノル）猿腰掛

秋風や田の土山のくろこゝろ　尚白

贈簑

ちらくさまくさの墓のくろ　北枝

扇女之

羽紅八九兆ノ書之

仁寵馬又寵雞酉陽俎狀如促織稍大脚長好穿寵旁

明年弥生八元禄四年ナリ

木葉ぬく情よ生うり蕎の花　木節

色紙ニ書

隆ゝと苔紫や萩の露　セ、扇

稲の穂に露を佛の土産ル　知月

石山や切うてうてう秋の風　知月

桶の箍やきれて鳴むきりぎす　昌房

墨ハ々タ飯時の灯つきうなる　仍如

吟ゝ作く蘊る香りの香ゆる迄　越人

越人を同しく訪ふて

蓮の葉の生る郎八庵ノ秋　等雲

明年　弥生最日庵

ものしも男代戸のひつゝ　晨業

田百夏

弥生　中尾ゝ生　任拾一　曾良

史記滑稽傳諧
一本韻ヲ韻ニ誤レリ韻ハ響ニ同シ
清正記云唐天中年終南山ニ僧アリ唐ヲ結定ヲ習フ一日鬻ル其伽黎衣ヲ袈裟被ル安坐ス辭猿有テ隨ヒ皆定坐ヲ習フ史記項羽記ニ人言楚人沐猴而冠耳果然逸人逸ハ逃ナリ定坐ヲ習フ此事林間録ニ出ト云ハ非ナリ其ハ録中ニ此事ナシ猶尋ヘシ
礼学記学不躐等日不凌節而施　躐越ナリ　凌弄ナリ
孤腋白裘孟嘗君ノ故事ナリ王褒譜德論ニ金之裘非一狐之腋也
易曰憧憧往来憧憧徐貞
詩ナ雉編隆蟲ヒ編聚也隆盛也
跂跂ハ也仲次也
騷ハ騷文ニシテ謂ヲ人為騷人也

跂

猿蓑者芭蕉翁滑稽之首韻也非
北彼山寺偷衣朝市頂冠笑只任
心感物寓興而已矣洛下逸人凡
兆去来随翁遊學棋館竹窓躐等
凌節斯有歳屬撰此集玩弄無已
自謂絶超狐腋白裘者也於是四
方唫友憧々往来或千里寄書書
中皆有佳句日編月隆各程文章
然有昆仲騷士不集録者索居竄
栖為難通信且有旄倪婦人不琢

礼記檀弓吾離羣索居寄散也　竄隱也蔵也　栖ナリ
旄倪孟子見ヘタリ　旄為老同倪
弱小之称ナリ
東坡全集龍尾硯ノ歌ニ麗言細語都不擇
域ハ界ノ字也　四序ハ四時ヲ云
眈古之時字ハ之日　稔年也
穀一熟為一年
釈氏要覽ニ安僧為掛錫
宿ハ書ニ同シ　卒ニカナリ
樵ハ度量ナリ　渡幾希望也
詞海漁人コヽハ俳諧ノ詞宗ヲ指
風狂風騷同シ　野ハ鄙ナリ
僧衣ヲ謂衲
丈艸尾ハ大山世臣二十五歳ニテ
蘚武玉堂和尚ニ叅弾ス出家ス
前芭蕉門ニ懐窩又佛幻庵ト
号ス元禄十七年二月廿四日寂年
四十四
漢ハ輟耕録謂賤丈夫為漢子

磨者塵言細語為喜同志雖無至
其域何棄其人乎其果分四序作
六巻故不遑廣搜他家文林也維
眈元禄四稔辛未仲夏余掛錫於
洛陽旅亭偶會兆来吟席見需記
此古戈題昏尾卒援毫不揣拙庶幾
一簣高張有補于詞海漁人云

風狂野衲

丈草漢書
正竹書之

文草漢カ　漢書ニハアラシ
正竹ハ雲竹門人

漢相如ノ文ニ朝開ル窓夕汲心泉

莊子逍遥篇宋人有善為不龜手之藥者略裂地封之能不龜手一也。朗詠座炉辺手不龜菅公
小文庫續五論真蹟集ハ金屏の松の古さなどに作ル箋記赤艸帝ハ金屏ヨ古のやに作ル
句選泊船集ハ金屏の古

三作ル
物の目虎の目ハサトキニタヽヘ
ニテ云リ

玉繼曰詩有聲画無聲詩

蓋斯
毛詩正義曰名篇之例義無定
準名不過五
源氏栄花の書くの名のごとく
まハ書くに

耳ふの作ることゝ物の目虎の目
とものたゝ課のまことゝ物の目
を思ひの生者の目ハのつゝ生ゝ
の目まかりらかゝもけてやゝ物の
篇なりて歌を詩ハ詩ハの二ツ
わゝつとも生をひきとるを者
の西をとのやうをもれハ又くぬき業
ハ篇アとゝうにくゝとも歌をかゝ
ハ詩の正義まくるものゝ
あるハやゝものまくの名ひとあり
物と例の名を作ることゝ詩の

文選首途
醉醒集ちきりの物語ぬ
源のうゝ之ぬを者ゝ
和やのうゝ之ゝ
うち海ゝ
獨言名
考
詣ハ閑ゝ

より所なくゝ事ハしなる芭蕉ハ
の首途を遂てゝつれゝを捨て毎年の
契りうつほの集の中に及てかの冬の歌
扶桑の物のゝ中ゝ業のゆる歌
をゝちゝつゝゝ業ゝとゝ
ハ詠ゝとゝ猶ゝをゝ
ゝを思ゝゝゝ集をゝ
成ゝゝゝ心ゝ宜ゝ所ゝゝ
立ゝてゝゝぬ今ゝゝゝ
ゝゝゝ歌ゝゝゝ
年をつゝる境ゝハゝゝ

元禄七の年夏国さつま初之ゟ来武出

炭俵集上巻

芭蕉

梅ゝ[illegible]の[illegible]の[illegible]山[illegible]

壁坡

雲[illegible]ふ雑ふの[illegible]つ

ふ夢[illegible]を[illegible]の[illegible]遠[illegible]とり[illegible]て

蕉

上の[illegible]ふる米の[illegible]

坡

育の内[illegible]ふ[illegible]と[illegible]せ[illegible]内の[illegible]

蕉

[illegible][illegible]を[illegible]秋の[illegible]

坡

清所へ[illegible]ふ[illegible]人よ[illegible]ない世ぬ

蕉

姫を[illegible]ふ人よ[illegible]ない世ぬ

坡

[illegible]良国[illegible]つ[illegible]る碁(ゴ)を

挙白集ゆ[illegible]ふ[illegible]

[illegible]ふ[illegible]白[illegible]る山[illegible]

ばせを

御頭

清袋 清ノ字四句去 祖翁見落トシテ許シ玉ヒ

終晴 ヨモスカラ

蒟蒻 コンニャク

京掛一本舞掛ニ誤ル

居合劍術林崎重信カ末裔

京師壬生寺自三月十四日至廿日

有念佛其間士人作俳優

東風風ハ時雨の雨風の

ナトイフ和歌ノ例カ

芭蕉

坡

芭蕉

坡

芭蕉

坡

芭蕉

坡

芭蕉

坡

芭蕉

坡

會林說話閉門可愛産前月

親子トハ親屬ノ子ニテ子ハ親ト子トハ少シニハアラス

元禄ノ頃浪人ヲ窄人ト書ク

白氏文集ニ窄落 オチヲチ

芭蕉

坡

芭蕉

坡

芭蕉

坡

芭蕉

坡

芭蕉

坡

芭蕉

坡

、

赤進年貢ノ納ノ数ヲ云

無好ノ事
双岡ト云ル書ニハ
孫ハ天王寺ノ四ツ安部堤ヲ
いふ事なきにあらず但て牙ル
寂閑にして名松丸とせよ
遠ぢうの物をこゝらへ来の
俗ゆゑ高れいるを云云
杉は福原の小鯛ニテ作ル
雀鮨ト名ツク

無ク喰ハ
子多ク喰ハ
未進ノ
陣ハ
解都ノ

蒸坡
蒸坡
蒸坡
蒸坡

三吟

兼好ハ蓮阿ト
ひきみや苣ト雀鮨
行きもの少坂のかきもて
かをぢとくるふ古撰抽

嵐雪
利牛
聖護
雪

雜話集ニ朝日ノ夕月ハ
七日以前の月をいふなり
又源氏物語ニもあり

泥深ハ田野赤渋ノ水ニテ深ルヲ云

喋くり（テウ）籠ハ非ス
豆ノモヤシヲ料理家ニテ貝割ト
云リ
黒谷岡崎聖護トモニ洛東ナリ
綱貫ハ革ニテ作ル雪沓ナリ

雜役ハ牝馬ナリ

如くと新るこゝの雪の自
雪ハ晩稲も去生みぬる
波陸をたゝふ陸れるのこゝ
ひたちも絵ハ屋の絵うし
傳うい若く蝶を呼ぶ
てふくしらも蒼るかのこゝ
黒谷の口を宮清聖護院
ゆるのかけを二段ゝ
弱ぬきの いぶの袖なる雪のこゝ
人のさくぬ松馬ものり
雜役の鞍を下をハ白ら著て

牛坡
雪
牛坡
雪
牛
坡
雪
牛
坡

仮の中ゆる芋を掘る自　雪
陳る白堤を隆そそ秋の風　牛
鬱所なくて小さく解かく　坡
寸まてうるき新る雲ぬて　雪
拾まるるのか仮をまる　牛
ちちくと河内の春物見られけ　坡
心尺ふ筆のせんしく　雪
蟬う寸て姫の世とは茶ふ　牛
ちまの蓋ハ浮も解まぬ　坡
重佛の細を仕ちまるる　雪
はかいるのかる時ふる　牛

クタ〳〵
風簡こく庭訓鍋トヲリ

聟ハ俗字ナリ

カヤロウ
界淮ナリ

乗の種ハ拾ふ仕風ふ仕れ　坡
ゆ地の屋保の稼ふ毛自　雪
弟ハちちく江戸て人全形る　牛
ちちく庭毛の口ハ本ける仕　坡
麦子このふうつて矢をるる仕紙　雪
ひちる毛雪のふり牛　牛
強倉のたより少ま走ふる　坡
ちちく雪の志ま紙引　雪
猫ひる母をまて記の長　牛
まく かびひる 二自の餅　坡

ヒラリ
片〳〵

愛

深川芭蕉庵ニ行テナルヘシ

僧都職原抄ニ准四位殿上有大少正權四分

ふかの川はやまあらて
宮ゐの市ゆきかよふ麦の穂　孤屋
豆の水鶏のたゝく深川　芭蕉
巴流を面さきの船の白波　怒水
ちつと聞けハ酒の宴中　利牛
春雪は降ぬ雪の月　蕉
ちらちら蝉のこゑ秋の色　孤
きりぎりす蓼のとり喰て　牛
吹の法師の工夫まる〻　水
味をよハ仏ふるまハ〻　孤
僧おもふまゝ生文殿ぞる　蕉

ちるてハ進ミテ市

鉢坊主市

風ふく枝ハ鳥の休ふる　水
赤のたの水ハ行をそのもり　牛
鯨汁義仏者ちよくなるて　蕉
菓の実置をさけて貴賤　孤
世ハちらちらもの新なる　牛
こゝ作一枝を力をもをて　水
雪の法師をかゝしる徒月　孤
ふかもしれてものおもひる　蕉
ふ庵を降と中の雨ちり　水
ちらち坊主ふ秋ふ　牛
法師の世ものの出界一洗茅生ま　蕉

セタニ名月ノ附たきの詞ニテ
ヤウヤタリ

褌ハ褌ニテレ也 同ジ貫ニ両脚上繋腰

鳩ノ名目ニテ珠數ト云モ表ニ不
雖

各九句

百韻

利牛

百韻

利牛

嘯

和名抄ニ茹物

ぢぬきハ魚の餌籠ノ中ニ
ちくめぬきまゝふヨ云リ

伊勢ノ矢川ハ中古賣女アリシ処
トカ一本商ヲ関ニ誤ル

外ハ弁官ニ十二三ハ尺ニ大鼓
イハノ三カ

ちくハアヤリニ獸言ルニヤ

裏ノ詞ハ行ヲ行ヲ見ヲ見ズナ
ト云東近江ニ多キ詞カ

桐ハ古考ナリ

鰾ハ鰯ノ一種

ミコイク
正義供ハ三月廿一日弘法大師
忌日ナリ

ヲクノ所ハ筥木ノ和物南都
法論味噌ヨクウツレリ筥木和
物ノミニカキラル

舞羽ハ伯繰又クルノキト云物
ナリ

集

蟻ハ能以土邑糞ヲ

芋莫（スイキ） 和名莪（スイキ） 芋茎ナリ

和名抄 特牛（ウシ） 万葉九ニ 特牛（ウシ）ヲ

宰 頭ノ天ニ牛ヲ云ヒテハ俚言

牛屋

坂

屋

牛

坂

屋

牛

坂

屋

牛

坂

屋

牛

概ハ樅ノ正字ナリ

天漢ハ大坂ナリ

堡壘城ハ石垣ヲモテナキ小城ヲ云

概と樅の字は和訓にて

牛屋

坂

屋

牛

坂

屋

牛

坂

屋

牛

弦打山ハ讃州海ノ浦ノ山ナリ
水縕（モヤ） 和歌雅水雲 本名又海
雲ナリ云
蚕ハ四度ノ休ミアリ終ヲ庭休ト云
小昼ハ巳刻過ヲ云

奴至寺ハ嵯峨ニアリ小倉山ノ麓
二尊ハ釈迦弥陀ヲ本尊トス
信心銘 臺聖有差
天地縣隔

弦打風 海雲ともる 桶 屋
樵婦（ヂ）結かひこ八百束刈り 坡
小屋のと 本
樵婦（ヂ）種ともる 屋
渦の濤かけを急入て天ゆる 坡
麦畑の碧地ゆる 橋ホ抜 半
麦ともる 赤ぶし形成の 茅 屋
物毎ともる 持ともれハ 坡
又ハ局のもとハいとく 半
妓ともの 二ともの 境 屋
りふハ 寂一かりとり 坡

ヒトツクリ
一續生

滑（ナメスキ）蓋ハ 榎背ともり

就田川ハ 淙模様ともり

爆（ドド）竹ともり

雲の、ともふ初ともを 隆半
ひとともとともよ 鑞の 雲 猫 屋
鈍きよ 葉引ともる 鳥の 坡
ともくきともくき 裏の 蝉 半
同ともを 踏て 世ともを 作ともる 鶴の 琴 屋
又ともみ て 美 淡 ともり 坡
かともを ともを 弁 の色の 成 ともを 半
ハともる人ともよ 時 時 長 成 出 屋
筋ともを ともよ 本 鈴 旅の 記 田川 坡
古 茶 茶の 尺 中ともる 面 のともり つき 半
おやともとともを ともを ともを ともを ともを ともを ともを 屋

水菓子鰊すする熱汁　坡
蕊の内引抜て居る櫻原　牛
屋敷なる返る少よく　屋
薮かるるそく時の面白き　坡
ハ丹つく月の六月　牛
拭立て居上の雲居ふる　屋
出立つつる泪かふこの　坡
名大水のものなる恨のけて　牛
何年一構撰ふれ数の木　屋
雲金ふ月山の沼を跡　坡
九ヶ月　濕をつらふ　牛

何年菩提トハ久シキヿヲ云菩提達磨ノ九年面壁ヨリ起ル
〃
濕ハ濕気ヨリ受シ病ヲ云

一本ハ一つ一つをヨリ一つきニ誤ル
土ヶ月ハ朝日初カヲ云ヒ
慍ウトハ心倦果トモ
柔花ニ柔ふ柔ふ　もてさせ
ヶ月の
丁寧俗ニ口篇ニ作ルハ非カ

定免ハ年貢ノ定リヲ

投打も後立ちれ矢つ　屋
見ち一碁盤ふ落る来る　坡
黒鍵れ所碁引の妙つきて　牛
形ふ人ものを娘の襟ふと　屋
案ふ加ふる新る事の鍵を　坡
ふ一果ふ八生社ふら　牛
丁寧ふ仙蓋係の口かり　屋
沼ふ沼て土ふ形る節　坡
夕月ふ鬱ふの名ふ夢ふり　牛
色て　名テウ　庭る鍵のものふ　屋
定免ふ年の形ふ欲ふて　坡

加茂社百首夏十五首ノ中
ほとゝきすハ伊勢の志ゝる人をきて
便りられしき空からしらなみ　慈鎮
猶大米抄ニ委シ

わかなや清水も那ふ奴おとろ一　牛
嘿鴉の鐘に雪をさらす寒の入　屋
幾月ぞ越る鳥坂　坡
職も主奴鍛冶屋の家並の店遠　半
門違東風町の春　屋
彼岸色一重の花の咲立て　坡
三人所々におもしろき春　執筆

春の部　發句

立春

蓬莱にきかはや伊勢の初便　芭蕉

拾遺ニ侍らハいゝそこゝやこゝに岩
をんけるり川の底ハこゝそ面と
平家物語ニ咲まよふかハ子の
深きれ行人とて搗麦の鹿ハ
丹波ニ越トアリ

標ハ小禄雀ハ奴隷ノ比諭カ

憚ナリ

その世のくるまとをむハ家
意ハこゝやよの嫁入まれもや
せん

東雲やまだ名もしらぬかゝり松　渭子
みちのくの風に踏越ん笠の影志　杉風
まつや扨ふ丹波の鹿も帰るとて　京　去来
刀さし侍もつれし若菜の春　膳所　正秀
いそがしき春を雀のかすみ禱　大津　酒堂
鳴つるや本吉の句ひの櫓月の　岱水
板いまれ門流坊主の水程い　沾圃
同下手も中の同や年の晦日　孫屋
初白新家莚立よ山すれとも　利牛
老松の歌のかくれし法蒙乱　野坡

梅

徒然草ニ京極入道ハ一重の梅を愛し給ひ植られたり又梅ハ清水よりもまさりて屋敷ありト

住元十月

飛鳥井ハ木枯ノ句ノ脇ノ詞同シ

梅一本ハ[illegible]の海うれ
う免候やの白の枝事ハ曲
梅うゑの命ゑ[illegible]初口ハ
重のうちをたゝきて
梅ちるやの[illegible]の口ハ白
梅咲て酒屋の爾れ[illegible]
赤味ハの[illegible]梅の
みなくゝ[illegible]梅の
梅ハ姫[illegible]書ル
[illegible]
[illegible]

五十五

賣治　曲翠　支考

イカ
土芳　利牛　湖刀　野坡　杉風

子角

[illegible]や梅ひ[illegible]切刻
[illegible]菜掃[illegible]
沒[illegible]の文[illegible]
徒月一[illegible]
大[illegible]
徒月[illegible]
深川の[illegible]

野坡　仙杖

傳
支考　仙花

[illegible]
十[illegible]
猫の[illegible]初[illegible]
猫の[illegible]

大サカ
利牛　之房　野坡　子角

雪

雪ふりて息をきる竹の
うらにふる茶をもつて雪の故
雪の夜ふけて部屋、雪の那
雪もつかうあるく一里雪夜
うらにふるの一夜も雪を入れり

柳

うらなりてをぶて徳柳
傳ふ越一月の雪の柳
ふる人枝折りて雪ふる柳
鶯鳴の尾分ける柳

嵐雪
其角
機嶺
野坡
利牛
湖春
素竹
野坡
一知

鄙の懐紙ニ雨中上ニ字ノ前書アリ

朝牛一雪ふる者の柳
午ふる柳分ける雪ず来

利牛
芭蕉

樗

雪ふる藤ふる藤ふる
枝ふる枝ふる藤ふる那
雪ふる藤ふる藤ふる
雪ふる藤ふる藤ふる
雪ふる藤ふる藤ふる
雪ふる藤ふる藤ふる

野坡
湖春
曲翠
嵐雪
支考
野坡

茶

うつの雪ふる茶ふる

五器ハ本字合器ナリ四ツハ釈氏要覽ニ十律曰鉢半鉢大鍵鎋小鍵鎋トアリ

初鮞　鰹小ナルモノヲ云又大者名鮞小者名鮞

頭ノ殿　為左右馬頭人従者尊称云爾

杜丹ハ唐土ノ花王ナリ

化又雲ナリハカナリモロキヲ云

五元集ニ打ヒヲ殺生偸盗ナリト前書アリ

家樗ハ人家ノ樗ヲ云

昆布爭ハ昆布煮ニ汁ヲ云

古今三夫全ク吉佐の中山
常ヨリ多シ 西谷川 ノ名のさ
やけさ

伏見ハ山城ナリ

葛城神ノコ第ニ立リ

抓ナリ

おこるさゝ〻ゝ〻や春江　孤屋
桑中を抓ふ日暮て乱れ　理坡
食の対皆行のこまゝ松ふさゝ　全

上巳

帶程よ川のたゞ〻ゝ汐干哉　沾徳
堂多よ寺ゝ〻ゝ桃の色　桃隣
かゝふきの神ハ〻ゝ抓の髮　其角
鬼のゝよ餅を焼ゝ髮哉　ヒウ水
ひよ酒をゝゝ〻ゝ桃の色　理坡
庵の猫毎ま踏る桃の色　利牛
義塩やゝの点かく桃の色　孤屋

新古今ニ雨中春雨ゆく〻と
ゝゝなゝゝのさゝ〻さハ志の
ふゝゝふ新ゝゝ水　紀貫之
流ゴ塵

青柳の流よ高〻〻〻汐干哉　芭蕉

題ふ寸

流ゝゝ命お辺小鮎哉　芹田夫　為有
ゝゝ山椒の芽ゝふ魚籠の酒　巴蕉
義球ゝゝの藻やこゝ本　子珊
ゝゝ〻〻とゝみ焼ゝの蕪哉　怒誰
ゝの行焼野の煙や風の末　猿蓑
ゝゝよゝゝゝ葉の麦の嵐哉　仙蓑

松ハ子

清澄橋の地ゝ内ハ堂哉　理坡

生葉ゝ〻〻〻

[illegible]　　聖坡
[illegible]　　利牛

夏之部發句

塩魚の[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　聖坡
[illegible]　　九蓋
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]

碧巖集ニ柳暗花明十万戸

駒　馬青白色也去来抄ニ八月毛トアリ翁ノ一直ニヤ

かぶとかけハ桶ノ箍掛ナリ

棹ノ歌ハ舩唄ナリ

宗祇の髪世ニ名高ニ
万葉十六又袋草紙ニ彩田郡新
毛ノ婦人彩田出の池ハ系ーる
[illegible]

[illegible]　　利牛

[illegible]　　芭蕉
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　許六
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　素堂
[illegible]　　芭蕉

あと

江戸本所二ツ目二ツ目三ツ目ノ橋アリ
又伏見トモ云ト五元集ニ前書
ナシ一ツ橋伏見街道ニアリ
盛衰記ニ法性寺ノ一ツ橋ト
見ル

柿寺ハ美濃國厚見郡立政寺
関ケ原御陣時神君柿ヲ献
ス

郭公

ゆくとてとゝ二ツ聞ふるる杖　梶原
鳴る一二の稚の松明の郭　三角
り打をあの松ゝ時ゝ　嵐雪
松明の宮ゝ雑野ゝ　杉風
本かゝ松ゝ業松ゝ宮や社宇　芭蕉
ゝゝゝゝ山ゝ一ゝ鳴ゝ時ゝ　素龍
ゝゝゝゝゝゝ鳴ゝ風ゝ鳴ゝ　利牛
る歌の出ゝ松明ゝ　聖坡

麦

柿ゝ麦種ゝ作ゝ　三ノ　前口

五元集ハ傘ハ紙ニテ貫ノ形ヲ作リ
元録ノ頃ハ紙ニテ買ノ形ヲ作リ
賣ニテ云ケリ
ちまき。ちまき。まきのはの。貞徳
ちまきやはまのゝあめ信ゝ
ちまきのふ。ちまき。いはせ人ぞ。元禄

麦の穂ゝ長ゝ山ゝ瓶波山　ゝ川
麦畑の田植ゝ麦ゝ時　作六
苅込ゝ麦の白ゝ白の田　利牛
麦畑ゝ出ゝ明ゝ麦ゝ時　聖坡
お寺ゝ麦ゝ中
浦風ゝ麦ゝ
堀ゝ麦ゝ堀の麦ゝ水　溶水
五月ゝ麦ゝ中ゝ人形　其角
さくらふ麦ゝ麦ゝ麦の風　大サカ　海豊

長嘯

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拍子（ヒシヲ）物

雑魚（サコ）

定家机ハ脇息 歌名物ト云

行かたをたづねてとふ人もなし
峰の松風いはくれて淋しき
まくしきしまの道の花を拍子の
まくしきやなぎの糸はたれ
夕潮に引のこしたる石よりの
こゑ白のかけて淋しき
歌名物

播州 宗家机のたなそこ
摩耳むくや蝶茶碗
世の中や年貢畠のうねの
不乙女かてとらるる菜畑

揉芝
知月
元禄
玄文
北波
素堂
杉丸
正秀
黒糸
花之宝

山吹巴モ義仲ノ妾ヨリ

岷山草木ノアル山ト云

水葵ハ浮蕾ヨリ夏秋共花ヲ開ク

本書後ろ
やまもとも巴も出る田植うた
蛍の宮や百俵出る田の夜
たくしやんすきあぬ出こてこ
成の月をきりとせて菖の苗
百姓の雨乗こつる 信濃弁
第ヘ一雨の少やる 葵
一ツきれ 蝶もうつくしの葉弁
ちりかゝる 蝶の羽ず 蟬弁
猫の牙ゆもけうる苗子うた
国府寒竹河のたつき 菊

許六
知月
北鯤
乙刀
丈学
仙花
梵之舟
三ノ 蔑香
サカ 為有
怒風

けうとくさい氣疎ナリ又物恐シキ也

無人望（スケナシ）

源氏横笛ノ巻ノ仏カ

阿刺賁（アルシ）飽盛ノ上品ナリ

餐（アルシ）蘊

別墅ハ別荘ナリ

けうとくさい八幡の極やうの家　裕甫

一枝ハ其ノ所ノ形ヨリ外ノ方ノ業ニ　仙花

外の子や兒の遊ぶ人の虚ノ中ノ一き　冨雪

さる（ヲ）人僕ら酒を飲むと紙かくく

戒め（ヲ）あひて渝（ケ）せむ結ぶ人ノ家ノ

よく知て居ノ所ノ泥棒ノ中ノ人ノ

取て酒ノ中ノ人ノ　利牛

居ノ人ノ家ノ堅ノ中ノ人ノ

酒ノ中ノ人ノ

行ノ中ノ人ノ　外波

炭俵集下巻

秋　秋の行ノ中ノ人ノ自を敷て時候の序を文ノ中ノ

自

名月や人ノ中ノ人ノ　湖春

名月や極ノ中ノ人ノ　去来

家買て居ノ中ノ人ノ　芳兮

名月や酒ノ中ノ人ノ　海堂

松蔭や蕎ノ中ノ人ノ　黒東

望汐ニノ大汐ヲ云リ

吹起スハ手ヲ合テ鳩ノ真似ヲスル

利牛

望峯ハ不二ト筑波ノ相望ヲ云リ

是ノ世ノ人ハ灯の影ルすゝぶの約りるすり

おこすつ本立ち立ち立ち海の月　甚角

むさしの仲秋の月初てゝん行て
望峯ノ不盡霧波を

名月やふ二人ゆるかと鎖河町　嘉祐

七夕

笹の葉ふ枕ゆて星むら〳〵
星合ふも文ゝつゝ和や牧屋の鈴　祐屋
あ〻ゝゝゝゝゝ天の川　風雪

盂蘭盆

たゝきけるかけうふ軒や玉祭り　酒堂
踊ゝ〳〵き終ふハ破て巻の月　江州 李由

閉関ノ説風俗文選ニアリ
説ハ言葉明カニシテ人ヲ教諭シ
公ナリ

古歌ニ梅ノ実践梅のもとまもる
せ侍る梅の枝ゝさ〻ら〻〻〻

巻の月寝ゝかゝゝを巻ゝ　理波

秋夜

閉関

秋夜や蛍ハ強ゝ古つの鉦　芭蕉
秋の夜や日蹴生て踊の鉦　利合
て〻ゝ秋と秋夜ゝ子拍ゝ　湖春

秋出

年ゝ〻ハ秋ハかゝゝ来ゝ
海ゝふ人のゝ来ゝ
横ゝ振ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ巻ゝ

大津 智月
丈芝
為雪
野尾

船恒形ノ視ハ鹿ノ足跡ニ似タリ

肴高ケソ通音ナリ山家集
ちるもみぢ葉のうへなる風ぞふき
すのしたくさをもらすなちる

鹿

夜荻の小ぢをたどる小荻　車東

人のかよふみちもなくて
鹿のふむ跡や砥の船恒形　素龍

旅行のとまり
ふるさとをなきてとまる鹿の声　土芳

芒

宮城野の萩や夏より秋の花　梅塵

むかるるとしらぬ村雨　野童

行末の萩や刈られぬ稲の株　猿雖

芦の穂や夜ひるる夢ぞうつ　丈芝

難波津をこぎうつ方やあの猿　玉来

芦の穂ヨ笠ふる方やあの猿

女郎の萩物をえて

草物や鼻の先なる赤かうそ　其角

園菜

菜畑に夏ちる雪のくもり水　杉風

甜菜ヨ多ふる雨九日水　梅塵

秋種物

柿のなる本ちる佳の安仏　利牛

義栗や答ふる蟹の甲　秋甫

秋風や茄子の敷の竹のうくるく　木白

ふるさと
実ノ五桃八後の実の形ス

篁ヨ千て世よとちふく孫の桃　弧屋

あるかぎりの名を薄雲かぶしと
いふ人加ぶら治世を重ねて久
しかりしゆゑよや未詳
ちうつき天のうきそらえいかちう
形をへ人おのかちに枝をの長る、
人のもて枝のて付る名あるは、
皆やきーかゝ和名鼠、汝ノ生ル
のふつうなる根天資自然の理、
はらく根むへのふかかり者を

培ノ
妻ハ端ヲリ

健男

催馬樂ニ活有ニのトうんトアリ

うんかも石巻ノ巻ふて世孫の
うちーのかうるはたの住家と、
ものつるゞ、土ノ根ふて、屋根のうち絶
二世の下牡子の日かげを多
見うるあと、なのやつく尺を結ふ戒、
新品のうちをきうのよ
注ものを魚ハ作大かく八かつう
楚つ、鱗の中をうちをう
つうたんかん枝の口をうつ
みうをうをうふ家のと

黄菊

石墨を踏まえて根こそぎ庚辛子　理波

詩ふる人

古撲ふるふるや秋のかるもき　霜雪

庭風呂の下に蓮の葉の陰　丈子

破ひろうを深物の白い花　酒堂

秋の雲いつしかかるくれる方に　若号

草枕ひとりも咲いた蜻蛉　利合

夕蕎の汁に秋しるる花ぶき　支考

古る秋風ひとりもたつうつり　小枝

秋風や陸地の池の上　信徒

唐ノ方神仏ふしをがの文　其角

冬之部

初冬

風や沖より立て山のきれ　立角

市中や冬の蕨不二尾　枕流

冬枯の隙よりたてる小さき　芝蘭

稲束や蕨ばかりの小さき　支梁

蛤の口のきれ物ばかり　斜岸

刈菜屋の沖の方ばかりの　松宝

風の義ともとる小さき　幾良

和名抄ニ雑菜　庶利佐加　能利

紅色附名生

南宮山美濃国ノ一宮ト

初雪や猫の毛よりも立て　梶之舟

風や時雨ふけき猫の面　八桑

南宮山より詠て

ふるしの根ともとり付梅雪ル　桃隣

幕間ふる雪の蘇鉄の実さび　湖力

時雨

芋畑の後ろふしより初時雨　荊口

馬ともり沖の時雨の行ところ　文子

茶屋ふる雪ふる時雨の庵に招きて

酒ふる程ふる時雨の庵　斜岸

ふるかれ時雨ふるかれ　許亡

夫木集ニ[illegible]ハ
何所のなるさまん傳の留も
次やうなる顯昭法師

[illegible]の時の
小野の[illegible]の印ハ拔やとね　芭蕉
大根引[illegible]

[illegible]山寺を[illegible]や大根引　芭蕉
鉢叩を[illegible]ハ[illegible]宿を大根引　野坡
神送り　蒼[illegible]る雪の上大根　洒堂

[illegible]の[illegible]下の[illegible]
人参の根[illegible]
この[illegible]
蕪[illegible]

野坡
小春
利牛

[illegible]
魚屋や[illegible]
右の[illegible]
[illegible]

我眉
里東

雪

初雪ハ[illegible]
初雪の[illegible]
初雪や[illegible]
雪の[illegible]
雪の[illegible]

野坡
利牛
買山
依し
猿雖

飯道寺ハ江州甲賀郡

新古今ニ弱法師ト云ヒ
ふかけもなし　佐殿の母の
歌の名ゝれ　定家

杉の枝の積雪を折て
朱の鞠や佐殿へ渡る雪の鞠　支考
雪ゝ雪ゝ如生る色ふ消る　小枝
岩蔵の横ゝ雪の寂　許六
海山の名残る雪吹ゝ　洒夕
江の新や曲宴ゝ雪の響　乙弱
題不知　素龍

かすゝ　物ゝ折ゝ枝折ゝ
雪ゝ雪ゝ如　羽黒主人　呂丸
禪門の草屋袋　初雪の十枝ゝ　芭蕉
　　許六

白魚コヽハ冬季ニ出甲子紀行
冬ノ部ヨリ即興感偶ニ任スヒヤ

佐夕焼の月の明るゝ村ゝ
白魚の白ゝ白ゝ如杉の笠　知白
楊の火や焼ゝ月の石ゝ尺　之道
庫申や雪ゝ雪ゝ如の行る産婦　丈子
淀ゝ淀ゝ路ゝ路ゝ里外ゝ乐　踏兵
　蝶掃除　　重角

蝶掃ゝ花ゝ掃ゝ大工ゝ　蕉
ゝ掃　陸ゝ地ゝ代ゝ　万乎
餅搗や立板ゝ茅屋ゝ　聖坡
山伏の足ゝ高ゝ　嵐香

[illegible]九述老懐宗長ら[illegible]
同じくこの老ぬれハ[illegible]を
さまきり

[illegible]
[illegible]カ
氣栄ヒシ

[illegible]

栄蓍　知白

杉[illegible]
[illegible]
知月
[illegible]屋
[illegible]
[illegible]城

芭蕉より[illegible]の久[illegible]れのるいの[illegible]と
[illegible]をこうたに

[illegible]

[illegible]

杜牧詩ニ南山与秋色氣勢両相高
尾上ハ山頂ヲスなりハ而有ノ
約ナリ　五元集ニハ杉をトアリ

約年よ来て[illegible]ふ状[illegible]　[illegible]去

其角

秋こ部

秋の雲尾上の杉を離れけり　[illegible]屋
おくれて一羽海[illegible]鷹　仝
[illegible]雲ハ編笠ハ貝吹て　角
自のかくれ四[illegible]の門
祖父ちゝの[illegible]杉[illegible]　仝
[illegible]ふハ[illegible]ちこ[illegible]　屋
下京ち宇治の[illegible]紅さ[illegible]　仝
城[illegible]の[illegible]る墓[illegible]き　角

編笠ノ節諸説未詳

鈴縄ハ鰍ノ脉縄ニテ水中ニ引
トリヲ知タメニ掛ル物ナリ

入井川行幸記ニ貫之
月の桂のこずえまでもの梅ばよ
りみなもよりぞ云し

宮ハ近江高宮より

蚋ブヨ

瘡ハ瘢

小本雀を薄ニ誤

宮の陰のたちこめ
夏草のふかきにまれて
ねぐらといへハ小鳥いとをる
年よりの夏蜜柑の樣も義ちて
常ときれる石風呂を
天事紙ハこれ次第の赤ちち
稗と搗とのけ前つる義
辛崎一首のこもる秋のこれ
ねぐら次る角の雲行
就燭して張て蓮の海の
旦陸ちて張て蓮ち弾てあく驚

説経淨瑠理の祖師にて元禄の判官と標題一カ治年間ノ印本アリ

其角孫屋各十六句

宗山子ノ句作哭大衆笑假令意カ

脚ヨリ嵩ノ迫三句人情十シ

小栗よりむかしなりけり　角

ちりもくらくなる海の船　孫

孫屋称ちりも出て浪のあるる

ゆきよりかぬ白米清りて此孫屋

天命氏無力

ちりもくらくなる海の船　桃隣

ぶんと水の落る秋うせ　雪坡

入月よ松はあんのうとなりぬて　利牛

塀の外て相のひらかる　隣

細童ちりもくらくなる海の船　坡

是ハ伊勢ト手立ナリ

長谷寺ハ九里ニ駒野里アリ

後ノ名所之

ちりもくらくなる海の船

つゆ寒ハ伊勢の海の船　牛

伊勢の国豊かなちんの国かる　隣

迫くなる春松を出ちくる足　坡

年よりくるものの我を住ぬ　牛

いなりこそいけ月のちら　隣

春伊勢ハ春の海の船　坡

あるよりあるく蛾の仕方　牛

ちりもくらくなる海の船　隣

鶴鳥ちりもくらくなる海の月　坡

時ちりもくらくなる海の月　牛

明春恵ちりもくらくなる海の月　隣

然ハ借字ハ十リ

より年八織物ナリ

人のもの買給ハ年月共ニ

[illegible]

より年の織ヨ火桶ニ[illegible]

むかしの小言[illegible]

買込て来て[illegible]

物ヲ[illegible]

洗濯の[illegible]

杉の木ヨ自かゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

よ[illegible]

坡
牛
蠣
坡
牛
蠣
坡
牛
蠣
坡
牛
蠣
坡
牛

正真面有ハ人ヘシテ[illegible]ノ約ノ[illegible]
リ正真ハ正直ニ同シ又古集弁
正真是ハ[illegible]ト云リ諸説紛然

冨田山城守治川際ナリ

[illegible]

性[illegible]

京ハ物[illegible]

焼物ヲ[illegible]

数ニハ[illegible]

先神ヲハ[illegible]

内て[illegible]

[illegible]

[illegible]

割木ハ薪ヲ云

冬の夜――なさこと

元和ノ頃挑灯ハ籠ニ紙ヲ粘シテ用

拂暮の原の八重の雪の朝　芝蘭

降てハやもてこと時雨ふる軒　玻坡

雪百ヲ樫の小篠を引ふ折て　砌屋

行たけのよ自をかるる風　利牛

ぬ鬼の餅を多ふ数紙の衣　坡

割木の炭きこの雪雪　蘭

砌のものの色つきあ多ふ霜かけて　牛

星さへ月て不氏二十八日　屋

ひらるきハ陸る軍のたるこ　蘭

泥雪の雪ふる雪孫もきあ　坡

時ふるも蕪挑灯を除消て　屋

啓蟄

元板はるゝニ彫損スモツ古こと

餓鬼ハ島人ノ異形ヲ云リ

第一ハ樓間ヲ

肩掛ふるる酒屋の看業　牛

上おとの平業きもむる空　坡

ふる出ぬ日紙を内て為まる　蘭

餓鬼の古ものを言つれて　牛

掛よいたる五十石元　屋

出色の餓鬼ふ鬼ふ鉄ふ自ふ　蘭

形ふぬてこのふる書業　坡

彩畠の囊ふ蕪つく雪ふ　屋

吹ふれふる笠ふよ　牛

川越一の第一の鉄の茶ガ　坡

平地の寺ふ薬ふ数　蘭

干柿を白湯のかくしあきらかにて　半歌
塩出し時の節　ホトトギス
兼用ゴ深きを高る京住居　蕉
み沙汰なりよむすめ　蘆　坡
とくとくと大海原の鏡　歌
芋屋のたのむ狀の拙きき　半
中よりて傍峯合の情いとひ　坡
碧をくくおてあをぬ夕身　蕉
風止こて秋の時の扉まかり　半
鯉の吹るの深をひこの子　歌
ちらちらと米は物語の切変り　蕉

誹ハ答ヘナリ

鯉ノ鈴縄ナリ

胴炭輪炭方炭ホ茶人ノ謂ト
コロナリ　四名句引畧

然谷ハ仲仙ノ中ノ一駅ナリ

同題ニ寄ての連句ちらちらやく　坡
とくとくかるものゝ自年一時分　歌
輪炭のちりを拂ふ去風　半

杉風

雪の松をれ口ゝ枯高宮　孤屋
口つけるゝ赤きふ申宮　芭蕉
下着を丁寧よ打ゆて　子珊
ひらくとき大名の使　枕斜
寸みなるゝ風ふかく屋自秋　利牛
雲をかゝ結て庵ま相地　岱水
然谷の堤きれる秋の水

稿よりの長ハ稿様成ル之
中國西國トモニ分限者ヲ手
前者ト云

際付ニテ活レリ
入ラスルナリ

苔ら〳〵て鯉節売る　堺坡
二三尋ほどもあるふ門の御　珊
るの長の物のまくる千りの　水國
外の波重なる度の事て　石巣
稿よりの長ハ稿様成ル之　松堺
中國西國トモニ分限者ヲ手　坡
前者ト云　利台
際付ニテ活レリ　流て
入ラスルナリ　瑚
珊
巣

とてハ来りテナリ
雪舟名、等揚雲谷寺ニ住ス
入大明帰朝後、永正二年寂

新墨をもて筆ほき給ふの春　風
皆戸一面に出ぬ　水
物おもひ口ずさみつゝを釈ぬ　風
取集めていろ〳〵き精進日　苔良
餅米を搗て俵てかり込　俳
ゐるを雪舟巣代の種　依
降一行て出をとて来る　沾圃
ふ〳〵新ふ仏の飯て切ぬけ　珊
搗ちかりてかゝ〳〵敷〳〵　半
大坂の人全まれる春の月　風
合

オマヘ前ハ一向宗ニテ佛壇ヲ云リ
唾ニ嘘ナリ

蓬ハ草餅ノ用意ヲ云リ
十三名ノ句引畧

海をゝゝみれハ祖母の家よハ　坡
まゝけぬるはゝの筥のゝけかゝり　珊
次のゝ新屋てつゝもゝゝる寿　半
弱ゝゝみて居れハ敷よ啓れ　京
ゝん、のこゝゝ不聞鶯哭よ来る　風
ゝゝのゝ百ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　僻
男ゝ一ゝ蓬ゝゝゝ　一ゝ　水

賣表ノ義

元禄七歳次甲戌
六月廿八日

撰者邑蕉門人
志太氏　野坡
小泉氏　孤屋
池田氏　利牛

続猿蓑集巻之上

八月宗匠面影　柳　芭蕉

[illegible]　沾圃

[illegible]　馬莫

[illegible]　里圃

[illegible]　沾

[illegible]　蕉

[illegible]　里

[illegible]　莫

[illegible]　蕉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白氏文集ニ北風利如劍
京ニ羽ヲ廣沢の池ノ面ト又黒谷ヨリ鹿ケ谷ヘ出ル道ニモ同名ア

[illegible]山の仲百[illegible]と　沾
[illegible]と[illegible]る書[illegible]　蕉
[illegible]不一日[illegible]の[illegible]　里
[illegible]の編[illegible]て[illegible]ぬ　貫ヌキ　宗　莨
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]と　蕉
[illegible]ぬ蝦[illegible]も[illegible]く[illegible]肉[illegible]　沾
[illegible]ま[illegible]侍[illegible]の[illegible]秋[illegible]　莨
[illegible]の[illegible]名[illegible]　里
[illegible]て[illegible]も板[illegible]の[illegible]　沾
[illegible]侍[illegible]の[illegible]　蕉
[illegible]ま[illegible]坂の[illegible]　里

タヲヤガ
嬋娟ナリ　静ナカ侍カ

小雀山雀日雀四十雀五十雀
云リ

多くとハ[illegible]ル事ナリ

[illegible]ふ[illegible]ふ星のうまれかわる　莨
引[illegible]ぬ[illegible]ま[illegible]ら[illegible]　蕉
[illegible]と出[illegible]ま[illegible]　沾
[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]　莨
[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]の水　里

カラ
雀の字や掛[illegible]て渡[illegible]の琴　馬莧
[illegible]の岸のおもかき角　沾圃
立[illegible]を[illegible]て[illegible]秋[illegible]て　里圃
[illegible]ふ[illegible]ル歌[illegible]廿　海　莨
雲[illegible]ふ[illegible]ル[illegible]古六人　沾

延を去て おの浦を
悔しさハ月の一歩の
清状さんてもさ 月まる
よもきる 栗の家きつ
ちゆり 国方の
ゆるも 迎
ゆるる 雁の種の
意伝 紙の 伝つて
庭 女房
ゆる 年の 年夢
蓑 一徳

里
芭
沾
里
芭
沾
里
芭
沾
里

命漫十り

三崎八能登敦賀八越前国十り

徐来も去て生きも蛍
去去つの去る竿の涼孫
雪の涼去る雪を梅鄰
去去四合点て塩去る
年年去ちの去弟去く
之時敦賀の花の岩む
汁の雪去年弟去の雪て
ゆの去雪を去川て去る
いいい去去指園を去
殿の屋立の ゆの去洲き
鄰かりてまま丸つの ゆ 高

沾
里
芭
沾
里
芭
沾
里
芭
沾
里

いさゝか三の句菊の吟に霰降トリ
同案ニ五里園ニ与ヘ玉フニヤ
草枯雁鳥眼凝

畢竟て庵ゝ庵ゝ料理ゝ
紅葉ゝ
新ゝ古根ゝ玉笹の
庵ゝ
庵ゝ
月ゝ
庵ゝ
雪ゝ
庵ゝ
雪ゝ
庵ゝ

芭蕉
沾圃
里園
芭蕉
沾圃
里園
芭蕉
沾圃
里園

いさゝか三の句菊の吟に霰降トリ
同案ニ五里園ニ与ヘ玉フニヤ
草枯雁鳥眼凝

垣ノ柾ノ霜ニ凍テ崖ニ飛ニヤ
又薊ノ茄トモ
節榑カ
元板ニトアリ一本頂トアリ
智恩院、京都東山浄土宗総本寺ナリ

雪のゝ
大根ゝ
以下ゝ
所切ゝ
花ゝ
智恩院ゝ
ゝ
祖ゝ
目利ゝ
状ゝ
ゝ

芭蕉
沾圃
里園
芭蕉
沾圃
里園
芭蕉
沾圃
里園

和州平群郡

柴舟のの八社ニ通フ

一本漬ニ作ル元板古集弁ニ貫ニ作ル

絡線中古ノ俗字ナリ絡孫娘ノ誤ヲ一葉集ニ蟾ニ誤ル

なの葉ふくるの水の澄ちきり　莫
伊勢葉きふ踏とりの面　沾
うき松ハ賜とつれを渡り名　里
ちかく立ちかくるかくるそう　莫
柴舟の葉の中よりはつ出て　沾
松の影つ門をあてたり　里
百姓よりて出るも出きよ　莫
うまのを絡ふなかめ行葉　沾
黄和の湯紙てこおろ一面　里
ちふの若さハそうそうよぬ　莫
外を遠ふ林の中の絡孫の葉　沾

ふるを人ゝ云　生を　注　墨
火情の出いけて絡ふ絡孫を　莫
一石ゝ雄の　木　沾
打〳〵ハ実因の切ゝ天葉を　里
俗よ加減の東ふ赤ゝ　莫
月かけよ　一畑ふ吸てふる　沾
おまひの中ゝ不早婚て屋松菅　里
ふ排ふ絡を中て姫のさく　莫
葉ふ葉の葉をふて仕ふる　沾
ちの行と一の方おもふ　里
寺のひけふる山孫の表　莫

不猫蛇ニ此花ノ句支考カ竄入ノ趣ニ云リ

何ハ今ノ仰山ナリ古言ハ希有ナリ

續猿蓑ノ題号ナハ此巻此集の巻首ニ出スベシト諸説ニイリ無住法師ノ雑談集ニ書のうつしとつくるあくるとなるハ猿ノ松蓑のそれのそれ〜このも

昼寝古ハ雑ナリ

みそういおうなりし池の蛙　沾圃
一面澤て行くくれ空　望

猿蓑よりもれくる雲の杉ぶ水　沾圃
はも立しなく野ぶ　一志　蕉
水のくる池の中より出て　支考
篠竹まじる蛍きらくく　性然
鳴ゆうるとやうて雲の月　蕉
面りのかきふくるる秋　考
盆ちまひ一ぱいて出る鮎の魚　沾
昼寝の夢ぶ鳴ぶ　蕉

蛍ニツコ尓ト元セスカ

是ヨリ他季移リニテ八句ツヽケリ

二井寺ハ紀州名草郡ニアリ此辺彼岸ヨリ早ク花サクト云リ

一本こちくゝ誤ル

蛍ゆてゆ雲も雲ふ物語　考
中国よりの状の吉　古　然
朝日の日ちとこやら振舞れ　蕉
一重羽蹴ゝ失てうゝ山る　考
きちんと書葉ぶ根（モミ）根（カヘ）　沾
山ゝ門　蕉の舟
初あくしの島の人のかけ出ぶ　考
ゑ際出る濱の小鰯　然
尺てゑ紀三井八幡の咲かり　蕉
蕎麦ふ咲ふ咲ふ永き日　考
うちの又一ぬ寄り北ゝ寄り　然

大節なりハ兩釈ノ命日ト云リ

糸を糸偏を大きくかゝる字
後峰の内義ハ今度百度かゝ
嶮峰のさゝもむさゝぶ程数
大せつなる日ゝ二百百巻のゝ程
雪かきらけ一中の沢を
来る程の系掛ハ皆出家庭
奥の世並ハ近年の作
海ゝも青のやきを自足して
赤鬱所を庭の正面
宮ゝぬ姫のゝゝとゝ志ゝめ
森汗のとまるゝ程ゝゝの夢

蕉考
然蕉
然蕉
然蕉

林氏詩會衣裳湖水秋

六くハ屢テ頻数ナリ

強チ

阿叟ハ公羽ヲサシテ云

自ハ東方の紅ふよかゝけて衣裳よ
湖水の秋を映くむされハそ雪の越の
雪をうつ芙蓉の峯を
高川〳〵砌てこそ沢人さこそ深
て四季の山を秋ふ
かゝる人さこに人を集
名をふのふ秋を何ゝ年のあく
こそ秋をあ蓮の水よ志くこの
水の魚をそ
ふる何ゝ深川の芙蓉よ四年の
雪秋をあ

白蓮社記曰在僧在俗俗而在僧者

荘子ニ君子之交ハ淡シ水

きの何ゝの雪をうて何ゝの山
父母の古墳をうの浦の浪
松蔭て加茂祇園の
ゝ何ゝ秋を結れ
里ふる雪の湖水の
かゝて中ゝ四里の
芙蓉の好をうむ
ゝて何ゝ
ものハ湖川の芙蓉よ秋をのく
ゝ浦ハ雪ゝ人の叶

奥義抄 湖光

杜律明年此會知誰健杖藜

苟且 仮初ナリ

漫

桃李園序罰依金谷酒數

何時ゾ

芭蕉

曲翠

杜鵑

楚秀

芭蕉

天文志ニ鵞高飛而定ニ天氣ニ
又昏ヨリ前ニ啼ハ日和昏ヨリ
後ニ鳴ハ降ト云

荑茗（タバコ） 又鵞

高
然
考
蕉
翠
高
蕉
翠
高

大和
晦日前昏ニ際ト云

然
考
蕉
翠
高
蕉
考
然
翠
高
蕉

ぞろ〳〵たかうく琴の上の羅龍　考
出義約四条の通の川原所　然
高泳を　たかくる表一箇　翠
角の角を　をかくす格の人　高
大きな鐘の　とんよ　ゆる　佐
巻きたる　ちりを　廉（ヒラ）なしよせて　考
獨うけ　猿し　藤棚の下　高

るゝの表　箇（コレ）ナリ

鈍（ド）

花屋日記云ハ遺物ハ頭陀中ニ後猿蓑ト題アリテ哥仙三巻發句四五吟ホト外ハハ書捨ノ反故等入トアリ此巻ノ中何レカ三巻富入ナラン

俤（アカ）ハ人ナリ

卓文君ノ故事ナリ

續猿蓑集巻之下

春之部

梅

湯石の　ぬるくて　梅さくら　露沾

春の河　多くの　又　ながれ　初さくら　其角

新しい　梅の　蕾　ながら　咲　初梅　蕉

近ふ　梅の　枝　くるまの　山　洞木

角ハ　人を　かくす　ものの　友　文子

も　苔て　ぬる　新の　ぬ　ぬ　酒堂

冨貴　ぬる　酒　ぬ　文子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

惟然　支考　沾徳　猿雖　涼和　已歌　春色　沾荷　子珊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いなの葉

深緑や蒔こぼしたる稲の葉　[illegible]

菜の[illegible]　[illegible]

夕波の[illegible]　[illegible]

一株の杜丹[illegible]葉[illegible]　[illegible]

梅　陽抑

[illegible]　芭蕉

衣更[illegible]大[illegible]梅の[illegible]　[illegible]

[illegible]梅の[illegible]　其角

里[illegible]　昌秀

投入や梅のおもひ[illegible]の[illegible]　[illegible]

五元集三窒府奉納中梅の云々トアリ

[illegible]の[illegible]梅の[illegible]　[illegible]

[illegible]　百[illegible]

[illegible]梅[illegible]　[illegible]

[illegible]梅の[illegible]　[illegible]

[illegible]梅の[illegible]　[illegible]

天神の社[illegible]

[illegible]つけ[illegible]梅の瀬際　[illegible]

[illegible]の[illegible]梅抑　[illegible]

[illegible]ハ[illegible]川抑　[illegible]

[illegible]　江東　李由

[illegible]の曲　九[illegible]

[illegible]

鳥 附魚

[illegible] 巴丈

[illegible] 其角

[illegible] 史邦

[illegible] 知月

[illegible] 芝意

[illegible] 去来

[illegible] 涵堂

[illegible] 傘下

[illegible] 史虹

[illegible] 玄章

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かれ香觸ケン

蘆蒿又鷄兒腸トモ俗ニ云嫩菜ナリ

春草

ちらちらも萠そめ浅や春の草　正秀
芽ぐみや杉なきき蝶の夢　尼羽紅
春の雲やいられのなるかふまちん　猿蓑
川淀や泡をやもやる芦の角　宮指
雪ゆるしてるや土筆のもちちり　車来
蝶ひや桜の芽ぐよりめうたき　蓼食
嫌ちふ涙ふるのも鬼ひのまこと　馬莧
堤よりちひ蕗れハまられれ　拙侯
踏跨く土堤の切目や蕨のちり　乃就
ふく俤に柳なさく土太松

山城宇治郡

そくハぬハ涼ケ手まぬく

早蕨や筆ちり古の柳ちり　正秀
味噌部屋の白ち紙ニ筆ル　夕可
口のかけて猫の抓ル猫活芽ル　一柯
蒲ニ美ヒ筆ニ筆ル　園菊

猫恋　附胡蝶

ちかけや自ニ杉ちく猫の恋　掾尤
ちく恋ちく猫の盗　支考
思ひの孫ちの里ニ出ける空猫ル　三ノ巳百

白日志つのこ

ちちちも蝶ハ東く胡蝶ル　柳柳
衣更ち弦ちちちや蝶の角　蛭然

妙福ハ冥福ニヤ又妙福ノ守ニモ云
もゝしハカノ書損ニテ丘カ
千刈ノ田ハ住吉ノ御田ヲ云
良文集松花水色渾ニリ

桃ヲ脇狂言ニ比諭セシナリ
阿弥陀経ニ彼佛光明無量照十方国無所障礙トアリ
蓮如上人御傳ニ小服綿ヲ常ニ召モフトアリ

款冬ト古来より用来れり
七月八月ちいさけれども花の
しのびやかなるもいとをかし

款冬附躑躅藤

山路や踏まよふ平一こる蕨ひとく　雪指

因京の人を對して

山路もちるあの窓の躑躅哉　洒堂

堀おこすてしくしの株や蝶のうち　雪芝

蕨嚙や種まきくく蕨のむ　荊口

春月

山の端をちらふ兵之春の月　長崎　魯郎

春日附春雪帷

如ちるき花の庵や春の雪　荊口

咲さへ調ふ合ふ春の雪　乃孔

鶯鶏（トウマル）

春記二洟雪水泡二似タレハ也ハ
ミ漢二作ハ誤リカ

春雨や庵も所のうら柳　游刀

ちるの丁馬ヶ武江の旅店を

春月附

春月や枕ふくらもあの本　支考

春雨やちらふ鍛冶ヶ槌　桃首

洟雪や百ふ迄春の笠　風麦

紙つくや桂の庵の石の赤　風睡

汐干

のうり帆の淡路ちかく汐干かな　去来

西川ふ不思のかけ形ふ汐干かな　雪指

雛去

墨石ハ墨ヲ云リ

雀ノ名ハ草木ノ生立ヲ云リ

小宮節ハ元録ノ小唄ヨリ

出の浦や氣鬱る海加賀　許六
菖蒲やまくき誠くる相の笛　風曜
墨石の松のくくりやあみとり　土芳
阿波や巖に猫のかけちくく　配力
小米花蓼のくられや鶏ほうき　万乎
蓼毎り猫活や雪花や市の年　苔蘚
木の芽ゑ雀かくれぬけ奉り　三ノ　柏水
春の日や菜の水仙の小宮節　心秀
ゑ尺の鯉とぬるゆ春の池　仙化
引ゑの中くゑ交ゑ四季一元　支考

蓬ゑノ子ハ歌集ニイ介

螺ハ海鹿ニ似タル上ニ螺有ニモ用フ

詩齊風ニ東方昧旦顛倒衣裳
顛之倒之自公召之

鏡裏ノ梅ヨリ祖羽粉骨ノ歳ヨリ

孤松を白波雪の石ばうゑ　支考

歳旦

芽水や人ゑくくくくを蓬水　少日　武山
蓬ゑハ年の雪の立所ゑ　石巌
雪や雑煮ゑての里つゝ丈　尚白
芽茶の具ゑつゝひ年一螺の貝　圃菊
母方の紋ゑつぶしやきを始　山峰
ゑいくゑ赤雲を額伝ふ
ゑゑと老父の久ゑ子孫一枯れい
ゑゑ松浦きゑのうふおよて　千川
人も人ゑ孝ゑ後のうらの梅　芝蕉

山ノ井ニ寄具考ヨ[illegible]
[illegible]

[illegible]阿弥世阿弥ハ猿楽の祖代
二代ナリ
羽吹ハ羽多ヘキナリ

[illegible]の[illegible]ふ時[illegible]ようあり　君
[illegible]の世[illegible]弥[illegible]
[illegible]
[illegible]

陸佃云陽散陰為霞陰包陽為霧

朝熊山ハ勢州

支考集ニ
きんぢの
きくよ

葛西（カサイ）武州

曉の雲をはらふや　玉　欽　甚角

時雨ちらくや洗水のそそぎ濁り　丈艾

ちらし濁やはらを木蔭　吋　香氏

玉欽ちらぬ板ゆ　熟　熟　山　支考

時流のあるやせりなふ　玉　欽　ゆくさ

蕉の庵ゆむ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　苦仲

濁ちらまは雨ちらけこの　部　氏

思ひ出の蕉ゆ　の　蕉　て　巡　程の

時ーてるちらちゆ

新ちかさ　ゆ　の　森　ゆ　中　ゆ　ちら　沾圃

本附　芋花

万葉集ニ
ちさかうの
て

山燃ち

撫和ゆ　ちらはる　友　ゆ　ゆ　雪撫

黒くの　濁かちぬ　友　木　立　野萩

園中二句

世中の　古木ハ　ゆれ　柿　の　蕉　牛節

年ゆの　花ゆも　柿の　蕉　氏　子川

雅る　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　嘉洗

顯山家ゆる　合

ちゆ　ゆ　根　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　支考

山ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　尾頭

ゆ　ゆ　ハ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　沾圃

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　宇（イカ）

[illegible]　　拙俳

[illegible]　　沾圓

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

故名ノ假名シユクナリ　チヾム非ナリ

三才圖會ニ無花果八一月ニ而熟ス

和名抄ニ無性沉伏而在ニ石間ニ者

懷古の情をもよほす庵の形　許六
ゆかしの茶の香るハ時雨かな　聖萩

秋涼

すゝしさや仏拵の義ゆゑに　宋殘
世を無果やあるもうつゝ涼　性然

涼川の滝を詠て

世世繁昌ちかひの誓涼しさや　史邦
涼しさや加茂の義を出る流れ　李賀
名ハ一ツ裏ハ竹てゆすぐ　杜年
すゝしさよ牛の尾振る川の中　万年

湧泉　三句

猛々しく水を湧る泉哉　洒堂
涼しさや移りもてゆく清流　支考
生絹を洗ふ玉の井　宣芝

世世繁昌を第一に移りて
清水出る谷のうもれ水　淋力
世世ハ一ツ中絶ぬける清流　丶
すゝしくも人をもてなす清水　玄来
黙然ること永ける清流や石の上　西鶴
職人の帷子乾る久しさ　土芳
涼しさや一帝初織の風俗　我眉
秋涼や むかしの世ハ月うさす　里圃

酢漿草（カタバミ）

盛夏

かくまでも照りつるかなし夏の渕　聖菽
李盛る人世のわらうの器　東乃年
義醫者の眼めやれしる
蓋し伝ふる
宮もと八請て春の器さ氷　正秀
元菁の角はたつまや梅つの丸　乙朔
悔きうる日盛なり春江　怒色
茨ゆふ塔ふ人ぬ器さうれ　尾張 嘉兒
茅の戸や器を有さうかつて　我峯
器きるや面をもすまのかうう　仆苔

元板雨ノ字ノ脱スル今補之
小文庫ニ京のもゝこヒアリ当年抄ニ論アリ　病蠶ノ孰字白氏文集ニ出

猶あけて器さいやまに蓋の孔　卓袋
粘るあり帽子の花のつとうの　黒東
主者れハむつと瓶花の器氷　沾圃

休の子

笠ぬぎ岸の富うの　の城
茅屋や煙のいとる庫家の垂　世蓼

正月雨附久立

白雪や書もおらに徽音の弟　不玉
さみゝ山や二蚕　素の　如　苔蓋
正月百や蹴さ　蹴　沾圃
夫きさ日　年　掘俊

[illegible]の葉多く沈の芦　苦薏
[illegible]　晩鳥
[illegible]傘如[illegible]やまと町　園水

蟬

白百や中原りして梶の葉　西秀
きつつ[illegible]て[illegible]梶の葉　如故
森の梶[illegible]やたつ[illegible]　工部
梶[illegible]織[illegible]の[illegible]叶ふ　晩鳥

[illegible]

蕭の目や[illegible]ふ[illegible]　蕭招

雜夏

酒客

飯籠ニモ作ル

[illegible]てくるの動[illegible]　杉処
宝のふ反茅[illegible]の細　荊口
反[illegible]の中の[illegible]　如去

川杉[illegible]

[illegible]の[illegible]て梶[illegible]　文鳥
[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]
夕雲ハ[illegible]　水酌

[illegible]

[illegible]

魚[illegible]ハ　馬苑
梅むき[illegible]の面　[illegible]

オモタカ
慈姑ノ字ヨロシ

晉書陶潛傳ニ潛嘗言夏月高卧北窓之下清風颯至自謂羲皇上人　箋草和名抄織[illegible]為席下

許六曰箋唐土ニ有事ヨリ上ニ草紙ニ昼寝の茵とも

よすゑハ便り

深沼や道はけらるる田のあと　理堂
蛙半鳴引蓮のそよぎ　水酌

雲の涼はなをうらやむ

世間を夏の表や　箋草
蛙こそ蛙かふる蓮　牛然

貧僧の[illegible]ハ
[illegible]ハ[illegible]

深ハ[illegible]
蛙[illegible]

秋の部

名月

名月や樺屋の雨や田のそよぎ　芭蕉

名月の[illegible]

[illegible]ハ伊賀の[illegible]月
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
樺ハ雲横[illegible]水[illegible]
[illegible]ハ老杜の[illegible]

山家集ニ月ヨヨヨヨヨヨヨヨ

西行上人初稱大實坊圓位

渺ニハ水ノ遠キ

老杜カ唯雲水のこハ稲穫空
雲水川平對石門ノ誤リナルヘシ

古今ニ秋の夢て月の桂ハ実
やハらかなる光りを光とちらん
もうるま

東坡詩ニ春宵一刻直千金花
有清香月有陰

田蓑島ハ摂州

闘諍す

支考評

名月の法ゝ法ゝ法ゝ

きそ元の松ハ斥候（モノミ）松より

蟬（ヒラタ）ハ小舟ノ薄シテ長キモノより

名月や海の底なる人もなし　去来
月や去年の秋よりの人もなし　園水
おもしろ過ぎて笑ひの月　山樵
月や寒し如何ハ門去の沢　知國
名月や四十人寄り蟬舟　雪笑
志ゝの月ハ宵の月も出てこそ　重古
月よかゝれ墨の絵ゝ　泥芹

伊勢参の山田よりて帰りの
高をおもひたちよ
二見まで屋地見る月見哉　支考
ゝ荷と畑とにしん月見哉　宝丸

古歌堂ハ其ハ去ハ名ゝ
山寺のかけゝ月を考ハ
ゝ

三老女ハ姨捨檜垣関寺より

拝の名の月哉と月見哉　如雪
山ゝのちゝも森の月　宗比
名月や里の白ひの寺の柴　木枝
鶴ゝ去て月見の笠の蓮　利合
名月や新かれを女中方　丹枕
名月や何も出ぬ花の月　野蕪
月入の山ゝまでとゝ月見哉　正秀

淀川のゝゝ月ゝ等て
舟の底のゝゝけて月見哉　文学
結青の月ゝ高ゝ宮部御　景樹

沾圃、寶生左衣夫

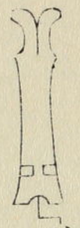
川上八葛飾の素堂に恵と玉フニヤ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

調ニテ年ノタクタクヲ
越中婦負郡稱坂ノ社ニテ女ノ
男持タル数枚ニテ打ス
弓固ノ圖



此革ス

ツマ子花ハ鳳仙花ヲ云
小文庫ニハ玉こうぶくりトアリ
史邦ノ自撰證トスシ
枕草紙ニのまちののびらうと
けや屋のゆるもひともーはい
かるるる云云

神ノ子ノ木ノ枝ノ折ノ
女郎花ノ折ノ骨ノ姿ノ
ちとみちとしてー新坂ノ杖ノ
一節ノ花ノ形ノ色ノ
弓固ノ圖ノ
贈芭蕉庵

百合ノ花ノ芙蓉ノ城ノ
ちとよ船ノ
柱ノ
移ノ
移ノ

雪ノ
史邦
万乎
芭蕉
至曉

去来抄ニかくのごとく
云ふものまちまちなるハ
此句カ

其角カ句芒野ニ菊ノ香トアリ
書損ジテ正シテ再入ニヤ

慢自抄ニ人ノ
ろうしーの
ゆるむ

折ノ
芭蕉ノ
蕉ノ
山人ノ
紙無ク

新ノ
蕉ノ
水ノ
紙無ク

虫附鳥

ろうしーの

雪芭
芭蕉
力士中
柳妖
行下

田上尼
雪柳
紙蕉
其角

女
可南

墓後　冨馬ハ兩名一物ナリ

蟋蟀やトアリテ傍ノト加筆ナリ

冨馬や新ら敷つく袋　桐　小枝
火の消て淋しき里の春　正秀
秋の秋や夢と解ける人の心　水路
蓑虫や所ら小倉一角の秋　杜芳
蜻蛉や何の味ある翠一の笑　孫九
蟋蟀の絵ゝ此の石のと　芳雪
蓋ての冨ら解きくふん稼の雲　示峯
山かゝらる垂いて孔ら秋の蜂　丈芳
ら此の杖ゆゝく浦の笘屋小　馬光
数鈴や夫ら先ら白川京　水国
栗の種とゝる時や此　鈴　文考

なのゝ高ゝ　ゝ　ゝ　

電光石火ノ間モ無明ノ闇ニ迷フ
世態ノ観想ナラン

[illegible]
圓〻

稲妻や[illegible]海の上　宇佐
[illegible]稲妻[illegible]　土芳
いなづまや[illegible]　芭蕉

木実　附菌

赤茸の[illegible]　北枝
炭焼と[illegible]称[illegible]　玄虎
[illegible]　湖堂
[illegible]　亦[illegible]
初茸や[illegible]　京[illegible]
[illegible]　沈園

此句ニ伊勢半従ヲ山家ヲ[illegible]
[illegible]アリ墨[illegible]故省之
[illegible]トアレト忘梅集其外ニ
付ト文字ニアリ付キヤ

畑ヲオコシ作人ヲ

松茸やとりも[illegible]山の形　[illegible]然
[illegible]茸や[illegible]木の葉の[illegible]　芝蕉

桃

[illegible]の[illegible]村名菜　北鯤

鹿

[illegible]の花や[illegible]の[illegible]　風睦
[illegible]　一的

農業

[illegible]　車庸
[illegible]　冥山
[illegible]　如雲

寸胴

江戸大塚地黄坊樽次ハ池ヶ大蛇
丸底深ト酒戦セシ人上戸ヨリ
慶安年應ノ頃ノ人ヨリ云ノ樽
次ハ底深誤リカ
西瓜上戸ハ頭ヲ吸ヒ上戸ノ異名
ニヤ

伊勢の神宮の山畑と称れて
蕎麦畑刈て後つき点やかる性
山茶のとくふくる雲の稲
屋うちまきの系譜なる小菜畑
一雲の雲と芋の雲と刈
秋空なる物の蕎麦の芝
百生ていくらもを庵幸る
大師河原を和泉て樽作ふ
あく孫なりて
蕎麦西瓜と戸の系の種

芭蕉
乃武
斗従
支考
、
惟然
木苦
沾圃

刻草ハ菊ノ名又別ニ種アリ
藤目集ニ秋芳ハ小ハ黄ハ
雲ヲ云フ名ハ多ク名ヲ
ヘ侍ル
玉牡丹ハ菊ノ種ノ名ヨリ
題屏画ハ屏風ノ画讃ヨリ
行騰 和名抄行旅具ニ行縢

菊

菊の子二ヨリ生ルヨリ為ナリ
ヒラ〳〵ヨリ生ルヤ白菊ノ玉牡丹
煮物ノ中ノ菊ヲ〳〵菊ノ花
菊重屏
むらもみぢ山路の菊の露の玉
結ひかけし〳〵菊ノ露やうの系
暮秋
唐津や酱名ヲ酒ル秋の菊
紅秋を鼓ヲ鼓の系の根〳〵
紅秋ヤ〳〵ヲ〳〵ヲ〳〵菊のいり

芭蕉
酒子
支考
凡兆
大子
呼水
乙州
芭蕉

雜秋

古六十法ものして 穀一つ　之道
栗うらの山家作らん　杉の手　雷友
ほろ〳〵雨の降るよりつく夜寒�(«)　睡止
殊る牧や長ぎ向出る秋の面　雷友
分ちらの寒のこころ　翁(ウホ)　菜　蕪子
及る蔦や稲こくあの笑の彩　万手
柿の葉よ燈籠雲に蕎麦　来川　宇陵

本馬こうまの宮と鼓骨せの笛鼓
ちかよりて鮭さる仏を雷て詩巻
の葉と切りう漢よ生ものまきれ

穀ハ俗字カ

蕉葉ニ雨ヲ聞テ枕ヲ欹ル　仮ヒ
芋枕孤ヲ聞テ秋ハ旅の寒ルモ
主馬名丹墅大津住ノ能太李

荘子至樂篇ニ援(ソツテ)髑髏ニ枕而臥ト云々

東坡カ九想ノ圖ヲ思フヘキカ

子(カヒ)れのれハ希求す

なるハ此ほとゝぎすなんやうの
鶺鴒と枕として秋よ夢うつく
ちるとゝもちらの生ものちう
めるゝ秋書や新の仏の花の種　芭蕉

冬之部

時雨　附霜

うの花の姿の結目や初時雨　野坡
ちれ稲ハやうと松風の出なん　小枝
ちふ斗人もうしれ初しうれ　芭蕉

類

楚王聞鏡中雨

一叶の又ちるもくやしき新井　雲沾
初時雨小溝の芋の葉加減　馬莧
平押よ五反田ちるも時雨小　北枝
紫蘇やいくつ時雨の袋ひろ　雪坊
横雲も笑ふ光の初時雨　宝牙
宛然の生てハ引込時雨　為有
文る花や後よりうつる一ト点　鼠口
石よりも重て重畳きぬぶた時雨小　北鼠
柿白むひ和ぬ一ト雨ふる時雨　春川
高ちちり時雨て里ハ集時分　里圃

沖典氏ノ名ヨリ

原本辛酉ハ誤リテ禄四辛未
同六年癸酉ヨリ勾選年考ニ元
禄六年トイヘリ

東坡侍ノ題ニ菊花開時則重陽ト
最ヨリ　大賛ノ御代重陽ハ延喜
帝ノ御国忌ニ当セ玉フニヨリ十月
残菊ノ宴ヲ行セ玉フ

日新ちちち

菊を折て人くとさゝるれなる
きくとまちぬ
菊の色や庭や花ゆくる屋の春　芭蕉
柳の色や花やちるる菊の一家　甚角
菊の菊体ゆのを濃や義の中　椒隣
いろの色やたつる菊の霞　沾圓
行色の分てふ色ん菊の枝　芝色
菊畠ゆるる園ゆるるふる　馬莧

帶無事の隱士琴を弾しと
おりふる菊も移の大きん支を
世をふるふる遠代もふるふる及ぶ

闕（ニシリ）

柴煮薄陽縣三手陶淵明カ隱
栖ノ地ヶ

竹洞老人名節一字友元林道春
門人ヶ

今ふるの菊とまれてむるつ
ゆふを春ゆ千年家と菊あ
ふて琴なり如ふるなりまや
ふて人見休洞老人春琴を送
れしふ平秋久ふ平秋ある
ふて嶺ゆ春ふ碧ふ人
風ふ春ふ春ふ行ふて行ふ
ふふ琴や作ふ菊の友　春雪

菊酒　附末

水仙や孫嬢ふれ一ヵ月遠ヶ　如望
ゆふ春ふ春や菊酒の春酒　泳国

長男ニテ越南八書損ナリ史記
越世家ニ出
山家集終ニ家を名とする人
多くしのくるをもてこうる

水仙の葉のみどれや数尾〜き　惟然

花鬘鶯ちやく〜ちんのくろさとる
山家集の歌ゥ

一番もらぬ葉の水ゥ　芭蕉
山茶花に入てうけく作り出　車庸
冬梅の花ゥ　土芳
山茶花の葉　麦生

木蓮葉　附冬枯　風

おもひ出すまつ本の葉ちる板や葉の家　沾德
星さえて江の鮒いむ蓮葉ゥ　麦浩
冬川や本の葉ハ黒き岩ゥ　惟然

本ハ順風ヲ恐レ逆風ヲ悦ブト云

梶葉ゥ　梶風

東梶坊宗祇の歌を引て

梶をとる〜雲ちゝ如郎也　一道
牛の行ゥ梶ハ梶葉のちゝ　杉夫
冬梶ゥ　梶破
冬梶ゥ　乃計
冬梶ゥ　利牛
吹ハ梶ゥ　支考
風ゥ　智月
木梶ゥ　風外
ここのゝ　惟然

牛の葉　附刈田の眼の鉄葉　水

曲礼注家鴨為鶩

中古霰ノ字ヲ用ヒ来ルハ誤カ。

本松平蓬来ヲ生ル牛の角　麈生

麦藻　海藻

麦藻　砂吉ヲ稀ニ生ヲ水ヲ　青魚

ヲ砂浜海鷺も鴨ヲ生ヲ　利合

鳥附魚

かもめ海ヲ入て

塵埃ヲ入ル　浦鷗　勿空

追ヲ付て寄ヲ入ル　芋茎

水松ヲ多ク庫中杉の松　犬ヲ

八海平砂の峰の如ク　衛

鶴ヲ　雲母

芦蘇

扨ハ偽字杓ハ挹也

海月文選注大如鏡白色正圓又海鏡トモ書リ

海父魚ニモ作ル狀如沙魚

ヲ鮒を犬追ヲ　提　うぐい　名木

杓沙ヲ　こうい　ハ人ヲ生海岸ヲ　利重

うぐいヲ海月ヲ　ヲ　車庸

又ヲ　ヲ　ヲ　

何ものか大きく成ふるを　中書
水仙や門を出れハ江の自然　支考
埋火
埋火や殘るものかけるこ〳〵　苔蕉
ゆ〳〵しハ松をかけるを大特式　少年　桃先
自由さや自を遣ひ出さる　泥木
雪
初雪や門の稲ひ夕日哉　甚角
鶏こゑや自雪を遠の味　今
雪ふれ世のかゝる雪を非　久葉
鯨鶴宗いとをもくもくれ雪　祇甫

五元集自筆ニ門ヨ撰ちゝトアリ書損カ又一直ニヤ
朝込ナリ
きゝくれ雪ハきゝくゝ雪の事ナリ

さ莎

雪ふる中に人ゝ雪のうゝて　菊宗
時ゝもゝ雪を雪ゝ雪　支考
ゝ雪ゝ雪降かゝるまさ猿　圓吟
田ゝ行の雪ゝ日枝の雪　丈芝
鬢刺ハ降来雪ゝ比良の嶽　陽和
伊賀大和ゝる山ゝ雪の色　配力
神楽
拂ふ雪も嶽ゝ雪ゝ嶽　史邦
鉢ゝ
食時ゝ雪ゝ雪ゝ雪の鉢叩　路芝
鉢ゝ千鳥雪ゝ雪　馬光

瞰への間もなく紙多き
狐を送りこの紙多き　許六
　　沾圃

煤掃　附餅搗

煤掃や簾巡る風の中　孫秀
まくまくと物ぬる物の紙　黄逸
才覚よ餅の如くや蝶と蝶　馬莫
蝶とかくれ長かれる紙はぶき　三ノ間如
蝶とかくれ形長一枚路くくく　悠然
餅搗や出をかくれ男部屋　徐水
餅搗やかうまる鏡の側　嵐葉
もち搗のこまかふ山伏　馬佛

滝紙ハ島子ノ下品ニテ帛色トリヤ
市多ク壁ノ腰張ニ用フ
曝字用来トモ俗訓十ニ
櫨ヲ行キリ

蒙著　附　苔衣　衣砧

こなたこの戸民なるもの市の表　苔衣
門松やまさてはおもの法の髪　里東
麦石やもとこ竹民年の蓑　芝士
猿もまよ和こ市年の蓑　車来
大年や取る信のさ一蓑ひ　万乎
猿もの数鶯つもけり年のれ　雪也
年の市猿さはるれ和織しの　其角
打こなもの山こ市の法市　西秀
引むまよ一牡紙や年の蓑　義子
椿の蝉のこ新ふし年の蓑　猿路

袴居ぬノ句炭俵ニ出ス再入八七部
集中其角髪長帽子ノ句ト此句ノ三
羽織ヲ着キリ

敗布

濱荻ハ芦ノ云ヤリ荻ナリ

柏堂呂丸元禄六年二月二日客死于京師

天鵝毛のさらふさのて年の暮　惟然

濱荻の芦を結をてとしの暮

時雨ハ圖司呂丸の羽織ゟ辛よ

のかるゝて行ゆくまゝて行

ゆ絶ハたゝるゝの暮めるゝ雲

ゆしてたゝをたゝ

蛍人て者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ年の暮　芭蕉

者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ年忘　支考

衡ゝ者ゝ者ゝ者ゝ年の年　土芳

者ゝ者ゝ也弱ゝて行ゝ義の年　岱水

者ゝ者ゝの祝ゝ成ゝ者ゝ年　ゟ年　桃隈

百八

衣配源氏玉くらべ巻三より民間ニハ奴婢ナトニあてゝる仕着ナリ

和名抄ニ俎ノ一字ヲ用

織屋ハ手ものるゝ物おゝゝ

一ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ塗板の鮫　山樵

雜冬　利合

小屏風ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ　斜嶺

桂竹ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ　去芳

井の水のゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ　圭下

宮者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ　仙材

雲者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ　圓仙

出者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ　重芝

山陰ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ　工谷

俎板ゝ人者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ　沾圓

蓮刈や[illegible]の如き [illegible] 杉風

釋教之部 附追善 哀傷

涅槃

涅槃像寄書鼻も見る多[illegible] 沾圃

[illegible]や[illegible]の[illegible]孫数の書 芭蕉

山も[illegible]の[illegible]像 不撥

多[illegible]の[illegible]や涅槃像 山樵

灌佛

灌佛や[illegible]井戸の石仏 曲翠

蓋も[illegible]佛生れて二之日 石丸

灌佛や釋迦も提婆ハ法[illegible]し 之乃

灌佛や[illegible]すこと再寒の吟なり 涅槃舎ハ書損か猶ハ義楚六帖ハ釈氏住處不可ニ畜飼者なりとなり

釈迦ハ浄飯王子提婆達多ハ斛飯王子ニテ尤従弟なり

元禄七年甲戌なり

兄

亀祭

吟[illegible]る水[illegible]魂[illegible] 嵐雪

[illegible]の[illegible]を魂祭 玄来

山伏や坊[illegible]亀祭 沾圃

甲戌の夏大津[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]ハ田里[illegible]

[illegible]

家ハ[illegible]の墓[illegible] 芭蕉

悼少年 二句

[illegible]の[illegible]

性然

此寺ニ上人刑ニ着ニ時ノ袈裟石今ニ存セリ

法義講ヲ俗ニ法命講ニ作ル

臘月ノ釈尊今暁明星ヲ見テ成道シ玉ヒヨリ

大師講ハ十月廿四日大台宗祖智者大師ノ忌日ヤリ

その秋をもつぬをもつ八秋の色　支考

かすみこめの詩ロもよ詩て

首の座八稲妻の光る所ら　本名

墓ホやや稲妻ほる柳の水　支梁

清新諧

柳も柿も拝殿ほう　清新諧　沾圃

臘八

腸をさくれ八酒をけ　許六

けのかのあれをハ大師講　如行

雑題

法華の苦如堂ほて苦を

去来抄ニ再改て今ノ詞ニなる

源――さのーアリ

仏在世ハ釈迦仏ノ在ニ世ヲ云

夏念仏　夏籠ノ日課ナラン

食業　庫裏ヲ云

如来開帳の時

深くこもる苔の仏　去来

なるほどと二本さしけの色　智月

ひ一個や敬ほうて仏在世　乙弧

ほの川越ふ山不二詣　重翠

ほまつ食の百藤一友金仏　理坡

食業ほ者ほ矢一ほれ　支考

蝶ほ部

送別

元禄七年の春芭蕉翁ほと

韻塞格のひのもとも然よ
本芳の塞ぐき人の旅かもなく
本芳の旅人の心は此句全貫
カ悪衆器ス

詩魏風碩鼠〻〻無食我黍
三歳貫女莫我肯顧逝将去
女適彼樂土〻〻轉
仕達ニ常陸下向ヨリ江戸ヲ出る
時詠ノ人ヨリ
身延山久遠寺ハ日蓮宗本山ナ
リ

大きなる鉢の底にて
麦ぬかを鉢の底の名残
おるるや柿の葉形の下坂の上　若の分
許六の本芳ならもむく時　性然
旅人のくるるもおよ柱うち　芭蕉
留別
浪の惜然う空う高く鳴る時
嵐とも出る雁の羽をあらし　丈芳
鮎のふの白魚　送る別れ　芭蕉
甲斐の方延上ぶる時宮ぶの
山辺をかくして

本芳ノ宇津の谷峠の西ノ
山家集ノ二の山路をよこ
うすくいる朱の葉の
ちるらん
是も古ノ人ハ歌にもよみ
なくり

谷地ハ溪間ノ荒地ヲ云
公羽ノ名マ、翁ニ給ル
十國ノ往古ハ常ノ國ノ大半ヨリ
三由ヨリ翁日此句ヲ云アリト

加賀
湯ヲ又ヨリ

年ふりて牛ふる芳の
稲妻や浮世をえらぶ麻山　木芳
是もまくつい山橋や旅の石　哉人
出羽の國ふかもむくの國ふかもむくの　哭紅
さらしなを
そのかみハ谷地ヲ名し小野篠　公羽
十寸ヲも少ハ鮭ヲ出す風　許六
なるの芳ヲ山ヲ松ヲ松ヲ小　今
鮭野路
くるくるさるの芳ハかつの魚の旅　芳良
燕ハ出てあるる本芳ヲ風　猿雖

西行上人ニ見ル浦ニテ扇ヲ文臺トシテ詠歌ニ古事ニヨレル力

足洗村ハ水戸ヨリ名古曽ニ至ル間ニアリ

此たびは桜をうゝ　我紫
漢つゝて砂ぬ　史邦
田園のをもしく　沾国
くらして
文春の　呂丸
我布袋　沾国
常陸国ハ　
紙をもて　
教さを　
ハ一枚別　
ゝて

四月十五日ニヤ此日粥ヲ供ス　和漢ニアリ

三年ハ四年　書損ズベシ
元禄二年ハ勝所ニテ越年ス　玉ヒ
初夏ヨリ石山ノ住庵ニ住ス　玉ヒ
又湖南無名庵京師ニ笛杖ス
粟津ニモトリ同四年ノ初冬武
江ニトリ　玉フ
塚本孫兵衛名如舟ト云
泊船集ニシメ宿ノトニ作ル　玉ヒ
八誤
甘蕉談曰先師迷化の年賀
の連衆此国ゝ一集なきハ殘
念なりと頻ニ申されしは諸
侯中一くさ考候に月迫に成就
しがたし　句線ハ二百ゆゝ
巻くもとのとなりてなつ
小集ハ　玉ヒ

桜やゝ　小夏　猪　支考
初瓜や　ゆふ　枝ち　今
元禄七年の夏粟津の茂
り武江おもむくとて島田の
駅塚本
高ゝて　時鳥　支考

續猿蓑は撰集半ニ翁迄代シ
玉ハリ過半後人ノ窺入ナリ ヲヨリ
草稿書ニハ〻〻書損見エ手跡
遠ニ坊ナルヘシ 不猫蛇ニ翁ノ自撰
ト云ハ片腹いたきなり 云云ト ヲリ
ソ逐者ノ削ニ又考曰翁ノ窺
撰ナレ去来丈草ナル行きなると
云ハ大ナル偽言ナルヘシ

續猿蓑は芭蕉翁の一流の書く行人の撰
らふ事なるべし 翁迄代の後 行智と野
翁のはん杉尾 行うし 新浮よあるべきなりし 無空
年 物語て 流の 来の 書 年出 をあく 一 芭蕉
虎 もるる ゆるし 語へり 出 年 成 八 書 け
しあるべ八 書 八 あの おほく 作 人 茅 舎 乃
もてれ八 ちう 一 字 を う 一 す 一 行 を あ ら た
めてその素 石 を以て 書 る 板 行 を ち ち
物し

文稼十一寅 六月 吉日